

令和4年度 特定健診受診者（40-74歳）のメタボリックシンドロームに関する調査

令和7年7月
健康保険組合連合会
政策部 調査分析グループ

本調査は、令和4年度の特定健診・特定保健指導データをもとに、第Ⅰ部「特定健診受診者のメタボリックシンドローム判定状況」、第Ⅱ部「メタボリックシンドローム判定における有所見の状況」一の二部構成から、特定健診受診者（40-74歳）におけるメタボリックシンドロームの状況について考察したものです。なお、第Ⅰ部とⅡ部では調査対象の組合数、集計対象データが異なる点にご留意下さい（*詳細は p.2～3 を参照）。

【調査結果のポイント】

第Ⅰ部：特定健診受診者のメタボリックシンドロームの状況（調査対象：1,118 組合）

1) 該当者の判定状況

- 該当者の割合は全体で 14.8%、男女別にみると、男性：21.5%、女性：5.3%。
- 年齢階層別にみると、▽男性は 70-74 歳が 31.8%と最も高く、次いで、65-69 歳：31.2%、60-64 歳：29.0%、▽女性は 70-74 歳が 12.2%と最も高く、次いで、65-69 歳：10.5%、60-64 歳：8.4%—となっている。

2) 予備群の判定状況

- 予備群の割合は全体で 12.7%、男女別にみると、男性：17.8%、女性：5.5%。
- 年齢階層別にみると、▽男性は 50-54 歳が 18.4%と最も高く、55-59 歳以降は年齢が上がるとともに低くなる、▽女性は年齢が上がるとともにやや高くなるが、50-54 歳以降は大きな差はなく 6.1%～6.3%—となっている。

第Ⅱ部：メタボリックシンドローム判定における有所見の状況（調査対象：498 組合）

1) 該当者・予備群の有所見要因（→p.29）

- 「予備群」では、【高血圧】の有所見者が 62.5%と最も高く、次いで、【高脂血】が 30.0%、【高血糖】が 7.5%。
- 「該当者」では、【高血圧・高脂血】の有所見者が 48.4%と最も高く、次いで、【高血糖・高血圧・高脂血】が 29.3%、【高血糖・高血圧】が 16.8%。

2) 該当者から<予備群になった者>の改善した有所見要因（→p.48）

- <血圧・脂質>の有所見者で【脂質】の改善が 41.2%と最も高く、次いで、【血圧】の改善が 22.6%、<血糖・血圧>の有所見者で【血糖】の改善者が 13.0%。

3) 該当者から<該当者・予備群ではなくなった者>の改善した有所見（→p.53）

- 【腹囲】の改善が 80.7%と最も高く、次いで、腹囲以外の【血圧・脂質】の改善が 13.0%、【血圧・血糖】の改善が 2.8%。

本調査における留意点

1. 本調査に使用した特定健診・特定保健指導データについて

(1) 第Ⅰ部：特定健診受診者のメタボリックシンドローム判定状況（1,118 組合）

第Ⅰ部調査は、令和4年度の特定健診・特定保健指導実績報告データのうち、特定健診情報及び特定保健指導情報の集計情報ファイルのメタボリックシンドロームに関する各項目のデータを抽出・集計したものである。集計情報ファイルの提供組合数は1,118組合で、特定健診受診者数は791万2,396人である。

令和4年度 特定健診・特定保健指導 集計情報ファイルの概要：1,118 組合

	合計	男性	女性
特定健康診査対象者数	979万4,790人	513万6,235人	465万8,555人
特定健康診査受診者数	791万2,396人	460万3,738人	330万8,658人
健診受診率	80.8%	89.6%	71.0%
評価対象者数	812万1,586人	472万9,014人	339万2,572人
評価対象者割合	82.9%	92.1%	72.8%

(2) 第Ⅱ部：メタボリックシンドローム判定における有所見要因（498 組合）

第Ⅱ部の調査は、令和4年度の特定健診・特定保健指導実績報告データ（集計対象：498組合、特定健診受診者：399万5,888人）のうち、本人が特定できない形式に加工した特定健診情報ファイルの個票データを用いて集計したものである。

集計項目は、『標準的な健診・保健指導プログラム』（厚生労働省）の参考用式集：様式5-3の「メタボリックシンドローム該当者・予備群」の仕様に合わせ、特定健診受診者の「腹囲」・「血圧」・「血糖」・「脂質」の各検査値をもとに、メタボリックシンドローム診断基準（p.4）に基づき、判定区分別・要因別に該当者（有所見者）数を算出している（p.3「参考用式集（様式5-3）に基づく集計結果（概要）について」を参照）。

なお、メタボリックシンドローム該当者・予備群の割合や判定要因別有所見者の割合は、同仕様に倣い、評価対象者ではなく、特定健診受診者数に占める割合としている。

『標準的な健診・保健指導プログラム』参考用式集：

【様式 5-3】

「メタボリックシンドローム該当者・予備群」に基づく集計結果（概要）

令和4年度 特定健診受診者（498 組合：399 万 5,888 人）：メタボリックシンドローム診断基準に基づく有所見別該当者数

				合計	男性	女性
特定健診受診者数				399 万 5,888 人	237 万 5,593 人	162 万 0,295 人
腹囲（男性 85 cm以上／女性 90 cm以上）有所見者の人数				140 万 2,510 人	117 万 2,248 人	23 万 0,262 人
有所見の重複状況			【高血糖】 【高血圧】 【高脂血】	【腹囲】 及び 【血糖】・【血圧】・【脂質】 有所見別 該当者数		
	【腹囲】 のみ有所見			28 万 1,581 人	22 万 4,242 人	5 万 7,339 人
	メタボリックシンドローム	予備群	●	3 万 8,531 人	3 万 2,173 人	6,358 人
			●	32 万 1,197 人	25 万 8,384 人	6 万 2,813 人
			●	15 万 4,531 人	13 万 5,164 人	1 万 9,367 人
	該当者	● ●	10 万 2,201 人	8 万 5,617 人	1 万 6,584 人	
		● ●	4 万 5,427 人	3 万 9,400 人	6,027 人	
		● ● ●	28 万 1,582	24 万 3,085 人	3 万 8,497 人	
		● ● ●	17 万 7,460 人	15 万 4,183 人	2 万 3,277 人	
メタボ予備群			51 万 4,259 人	42 万 5,721 人	8 万 8,538 人	
メタボ該当者			60 万 6,670 人	52 万 2,285 人	8 万 4,385 人	

2. 用語の解説

(1) 特定健康診査受診者数

特定健康診査の実施年度中に 40 歳以上 74 歳に達する者で、その年度に通年で在籍している加入者のうち、特定健康診査の項目の全てを受診した者。

(2) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）該当者

内臓脂肪面積、もしくは腹囲測定に加え、【血圧】・【脂質】・【血糖】のカテゴリ判定において、基準を超えた項目が2つ以上該当した者である。なお、本調査では、基準値を超えた項目を「有所見」、当該有所見を有する者を「有所見者」としている。

(3) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）予備群

内臓脂肪面積、もしくは腹囲測定に加え、【血圧】・【脂質】・【血糖】のカテゴリ判定において、基準を超えた項目が1つ該当した者である。なお、本調査では、基準値を超えた項目を「有所見」、当該有所見を有する者を「有所見者」としている。

メタボリックシンドローム診断基準

診断項目		診断基準
【腹囲】	ウエスト周囲径	男性85cm以上、女性90cm以上 (※内臓脂肪面積 男女ともに $\geq 100\text{cm}^2$ に相当)
	※収縮期・拡張期のいずれか、または両方	
【血圧】	収縮期（最小）血圧	130mmHg以上
	拡張期（最大）血圧	85mmHg以上
	服薬（高血圧症）あり（特定健康診査の質問票にて「はい」と回答）	
【脂質】	中性脂肪	150mg/dL以上
	HDLコレステロール	40mg/dL未満
	服薬（脂質異常症）あり（特定健康診査の質問票にて「はい」と回答）	
【血糖】	空腹時血糖	110mg/dL以上
	ヘモグロビンA1c	6.0以上
	服薬（糖尿病）あり（特定健康診査の質問票にて「はい」と回答）	

■ 第Ⅰ部 令和4年度 特定健診受診者のメタボリックシンドロームの状況

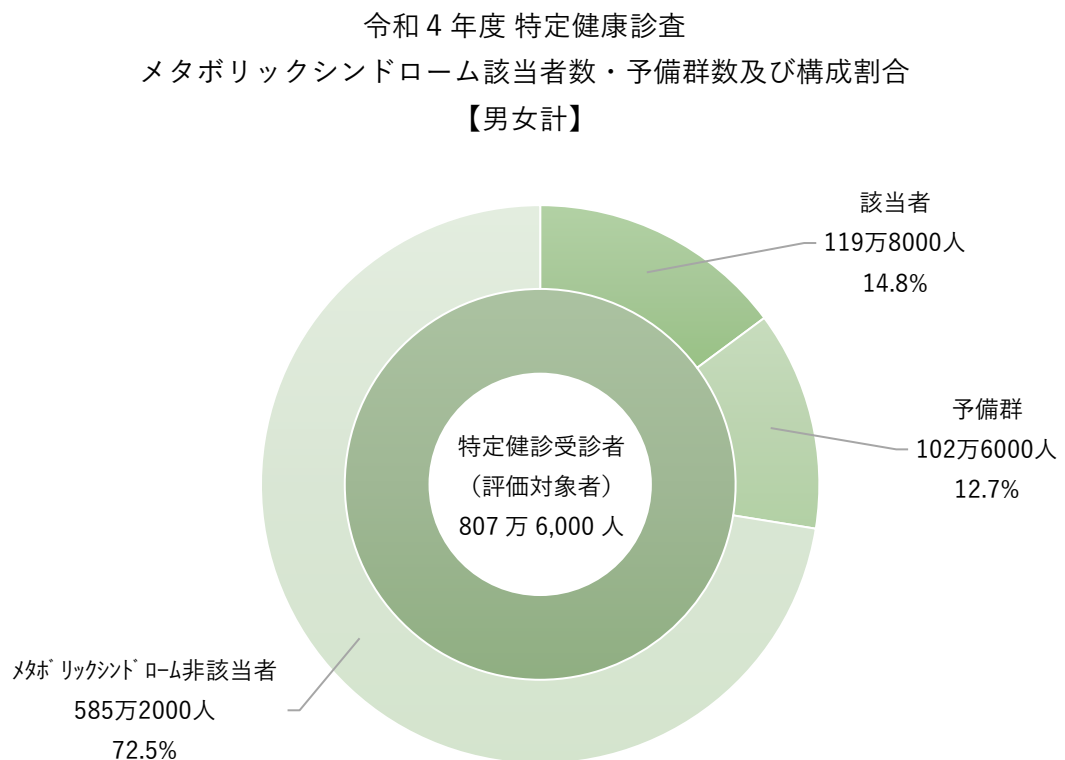
集計対象：1,118 組合（特定健診受診者：791 万 2,396 人）

1. 特定健診受診者におけるメタボリックシンドロームの判定状況
2. 年齢階層別にみたメタボリックシンドロームの判定状況
3. メタボリックシンドロームの減少率
4. 年齢階層別にみたメタボリックシンドロームの減少率

1. 特定健診受診者におけるメタボリックシンドロームの判定状況

(1) 男女計

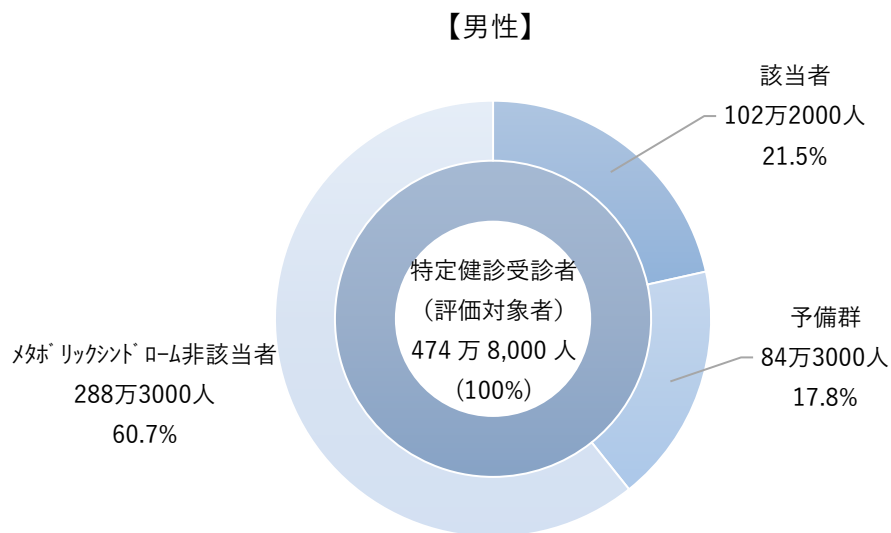
- 令和4年度の特定健診受診者のメタボリックシンドロームの判定状況をみると、評価対象者¹（807万6,000人）のうち、該当者は119万8,000人、予備群は102万6,000人で、▽該当者の割合は14.8%、▽予備群の割合は12.7%—となっている。



¹ 評価対象者とは、特定健康診査受診者（特定健診の基本的な健診項目をすべて受診した者）に、「特定健診の基本的な健診項目のすべてを実施していないものの、特定保健指導の階層化に必要な項目は実施している者」を加えた者である。なお、該当者・予備群の各割合は、メタボリックシンドローム該当者数・予備群数を、評価対象者数で除し、100を乗じて算出した値である。

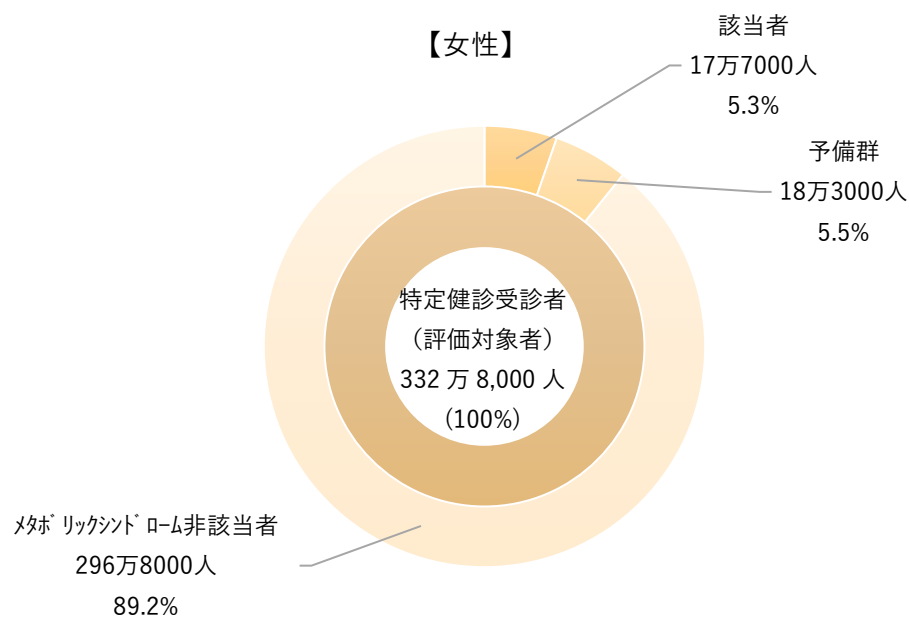
(2) 男性

- 評価対象者数 474 万 8,000 人のうち、該当者は 102 万 2,000 人、予備群は 84 万 3,000 人で、▽該当者の割合は 21.5%、▽予備群は 17.8%—となっている。



(3) 女性

- 評価対象者数 332 万 8,000 人のうち、該当者は 17 万 7,000 人、予備群は 18 万 3,000 人で、▽該当者の割合は 5.3%、▽予備群の割合は 5.5%—となっている。

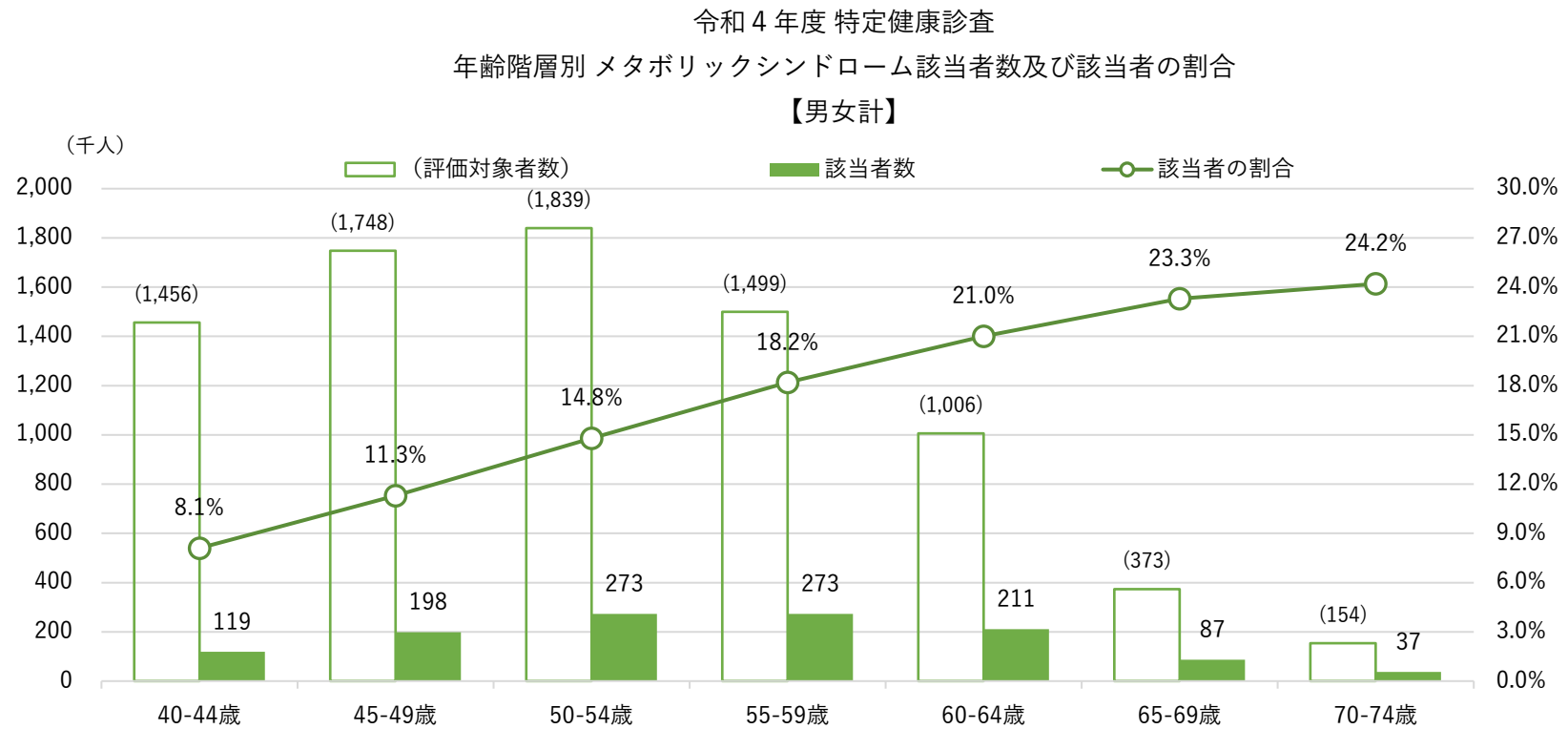


2. 年齢階層別にみたメタボリックシンドロームの判定状況

(1) 該当者の判定状況

1) 男女計

- 年齢階層別に該当者数をみると、50-54 歳及び 55-59 歳が 27 万 3,000 人と最も多く、次いで、60-64 歳：21 万 1,000 人、45-49 歳：19 万 8,000 人となっている。
- 年齢階層別に該当者の割合をみると、年齢階層が上がるとともに高くなり、70-74 歳が 24.2%と最も高く、次いで、65-69 歳：23.3%、60-64 歳：21.0%となっている。

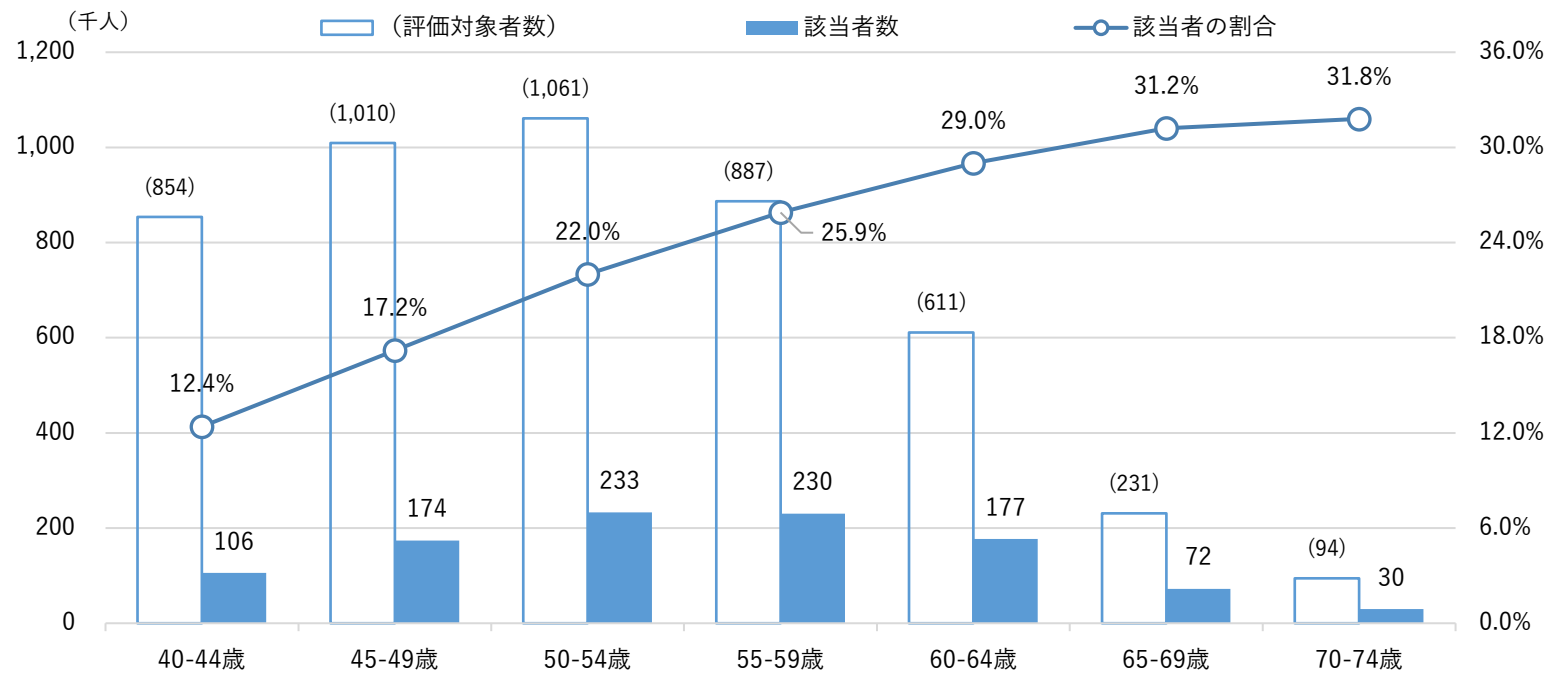


2) 男性

- 年齢階層別に該当者数をみると、50-54歳が23万3,000人と最も多く、次いで、55-59歳：23万人、60-64歳：17万7,000人となっている。
- 年齢階層別に該当者の割合をみると、年齢階層が上がるとともに高くなり、50歳から64歳で20%以上、65歳以上で30%以上となっている。

年齢階層別 メタボリックシンドローム該当者数及び該当者の割合

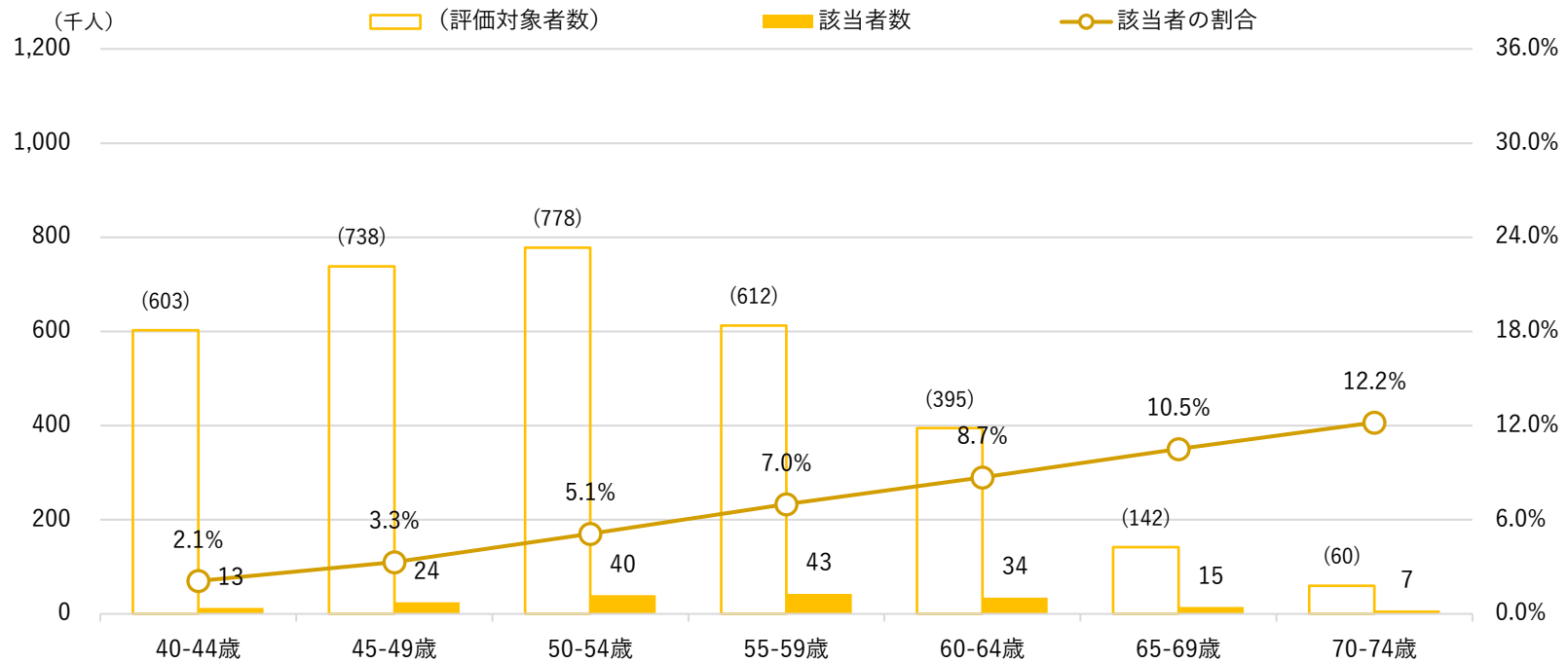
【男性】



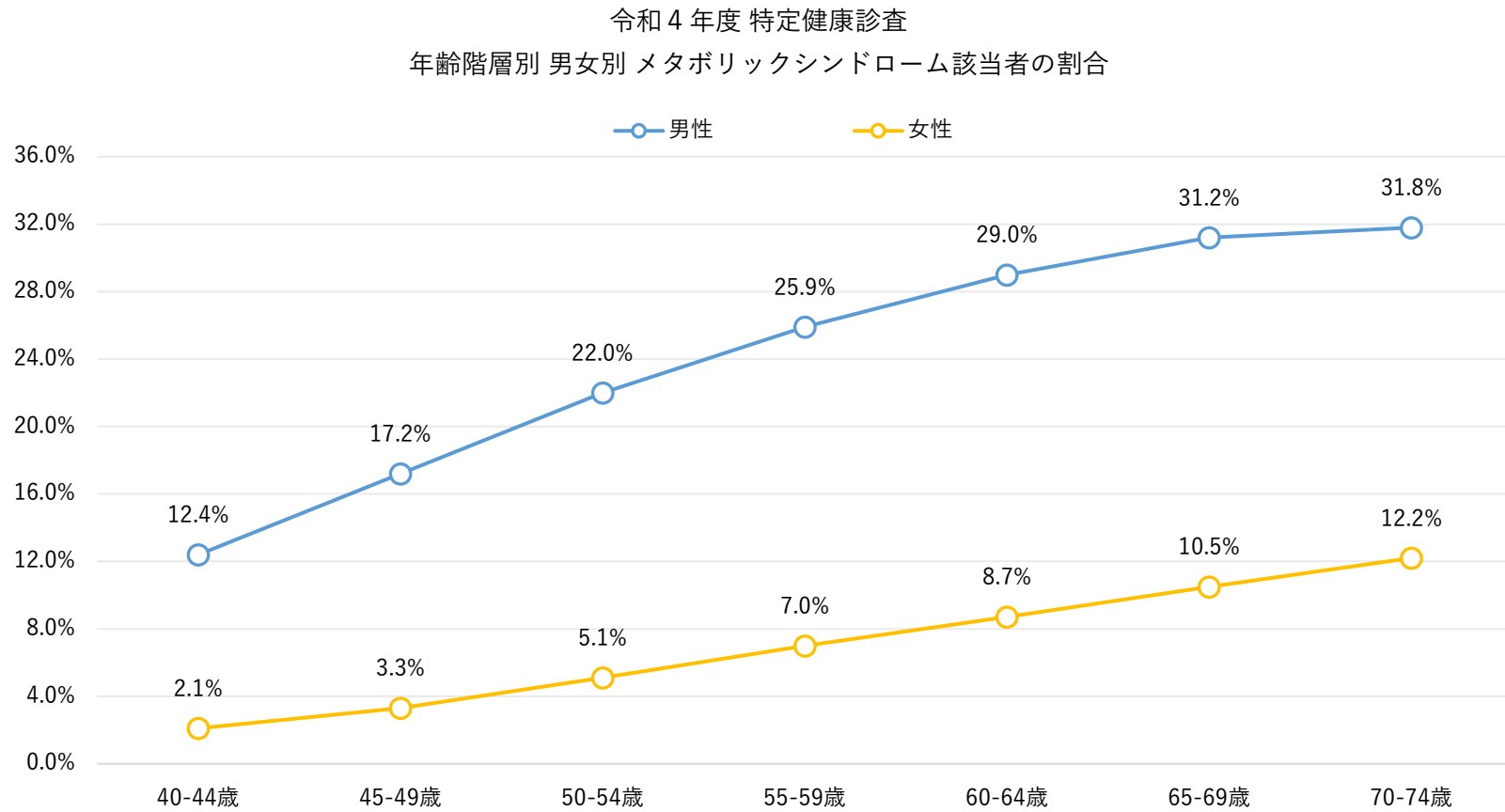
3) 女性

- 年齢階層別に該当者数をみると、55-59歳が4万3,000人と最も多く、次いで、50-54歳：4万人、60-64歳：3万4,000人となっている。
- 年齢階層別に該当者の割合をみると、年齢階層が上がるとともに高くなり、70-74歳が12.2%と最も高く、次いで、65-69歳：10.5%となっている。

年齢階層別 メタボリックシンドローム該当者数及び該当者の割合
【女性】



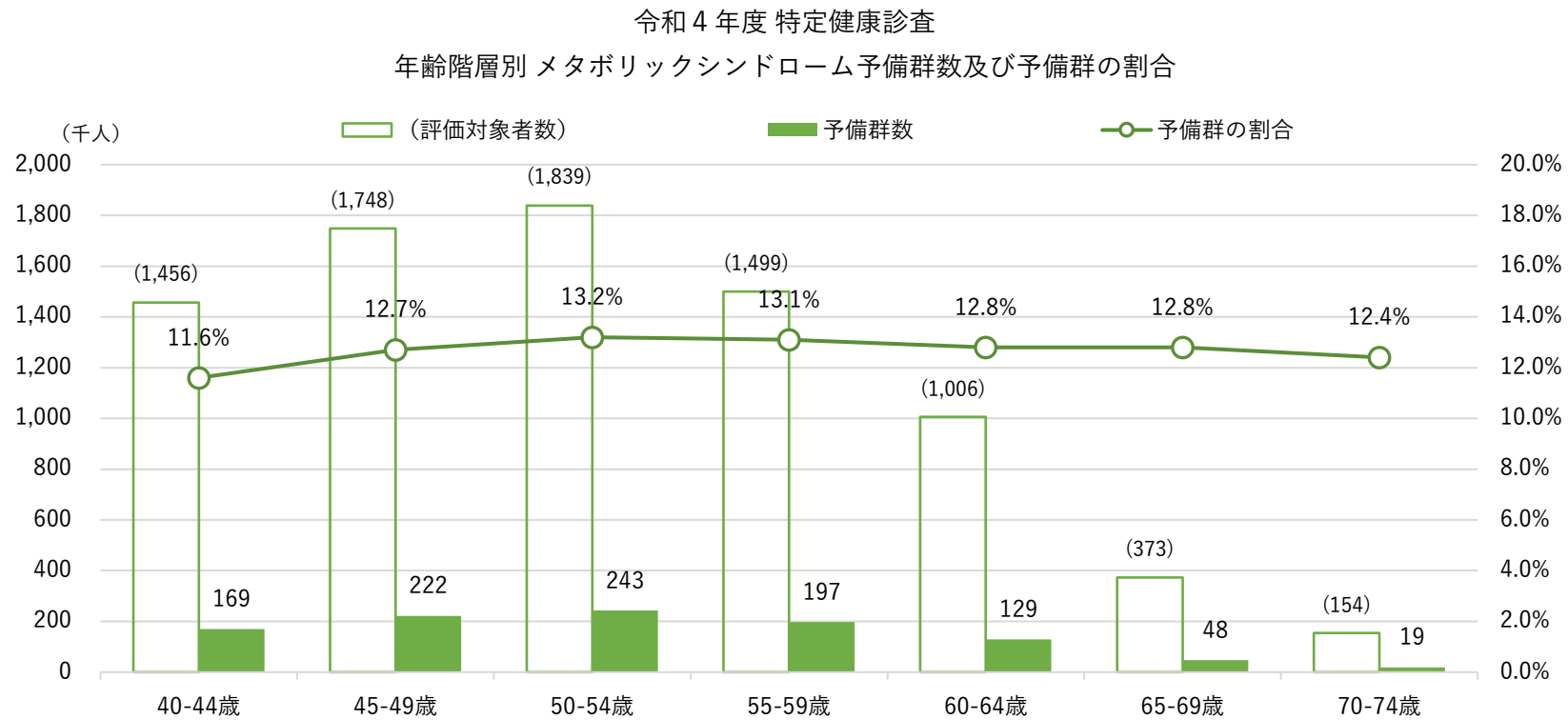
(参考) 年齢階層別 男女別 メタボリックシンドローム該当者の割合



(2) 予備群の判定状況

1) 男女計

- 年齢階層別に予備群数をみると、50-54 歳が 24 万 3,000 人と最も多く、次いで、45-49 歳：22 万 2,000 人、55-59 歳：19 万 7,000 人となっている。
- 年齢階層別に予備群の割合をみると、年齢階層別に大きな差はなく、50-54 歳が 13.2%と最も高く、次いで、55-59 歳：13.1%、60-64 歳及び 65-69 歳：12.8%となっている。

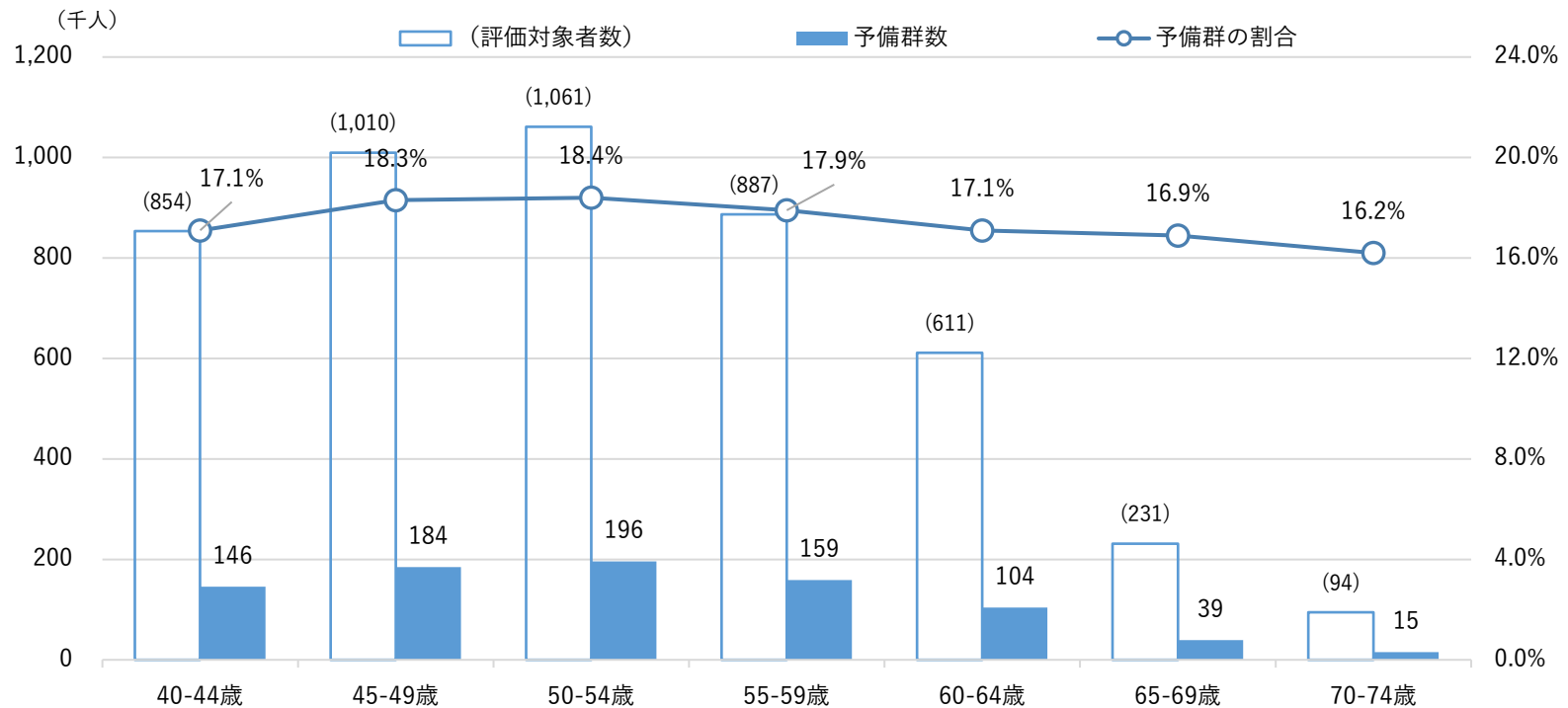


2) 男性

- 年齢階層別に予備群数をみると、50-54歳が19万6,000人と最も多く、次いで、45-49歳：18万4,000人、55-59歳：15万9,000人となっている。
- 年齢階層別に予備群の割合をみると、50-54歳が18.4%と最も高く、55-59歳以降は年齢階層が上がるとともに低くなっている。

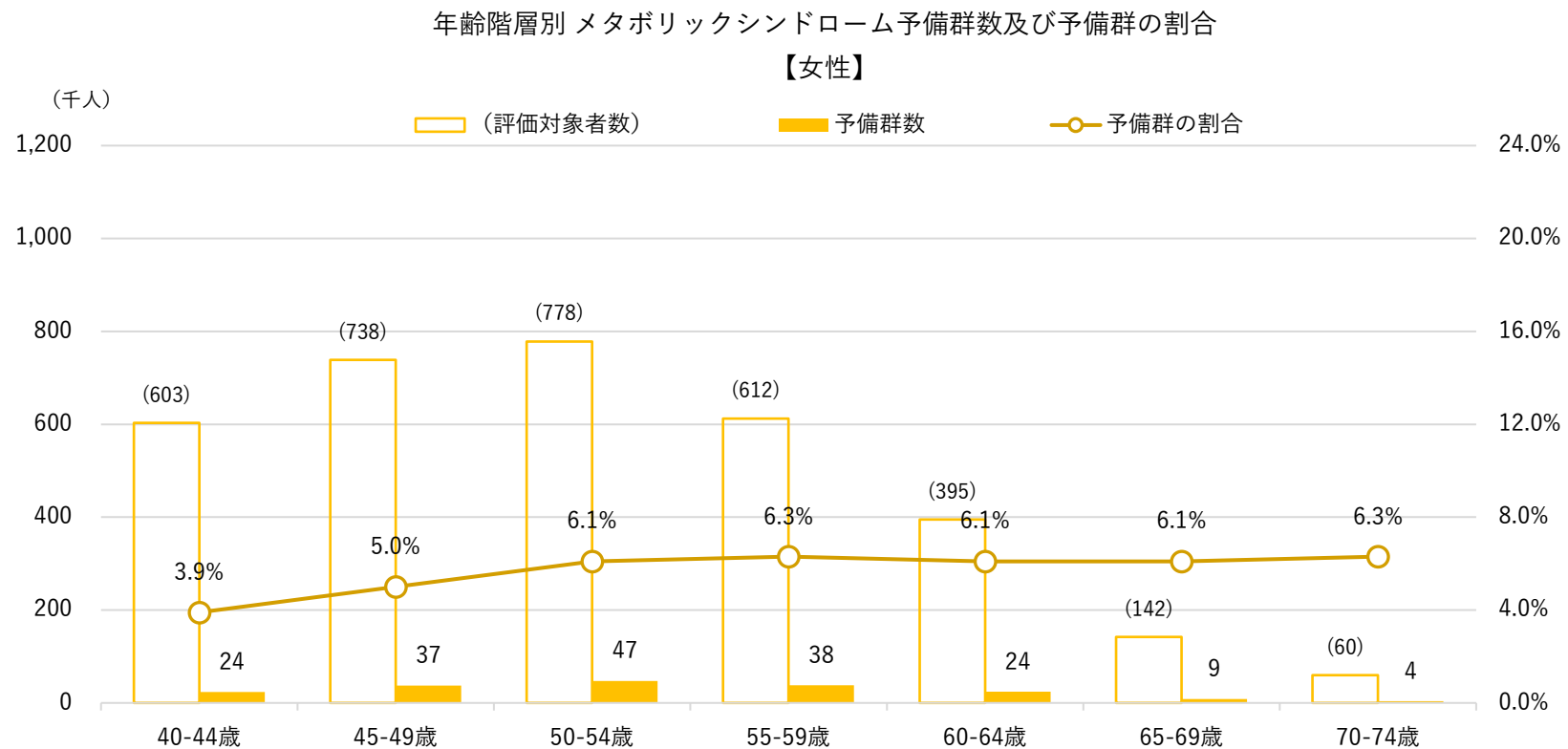
年齢階層別 メタボリックシンドローム予備群数及予備群の割合

【男性】

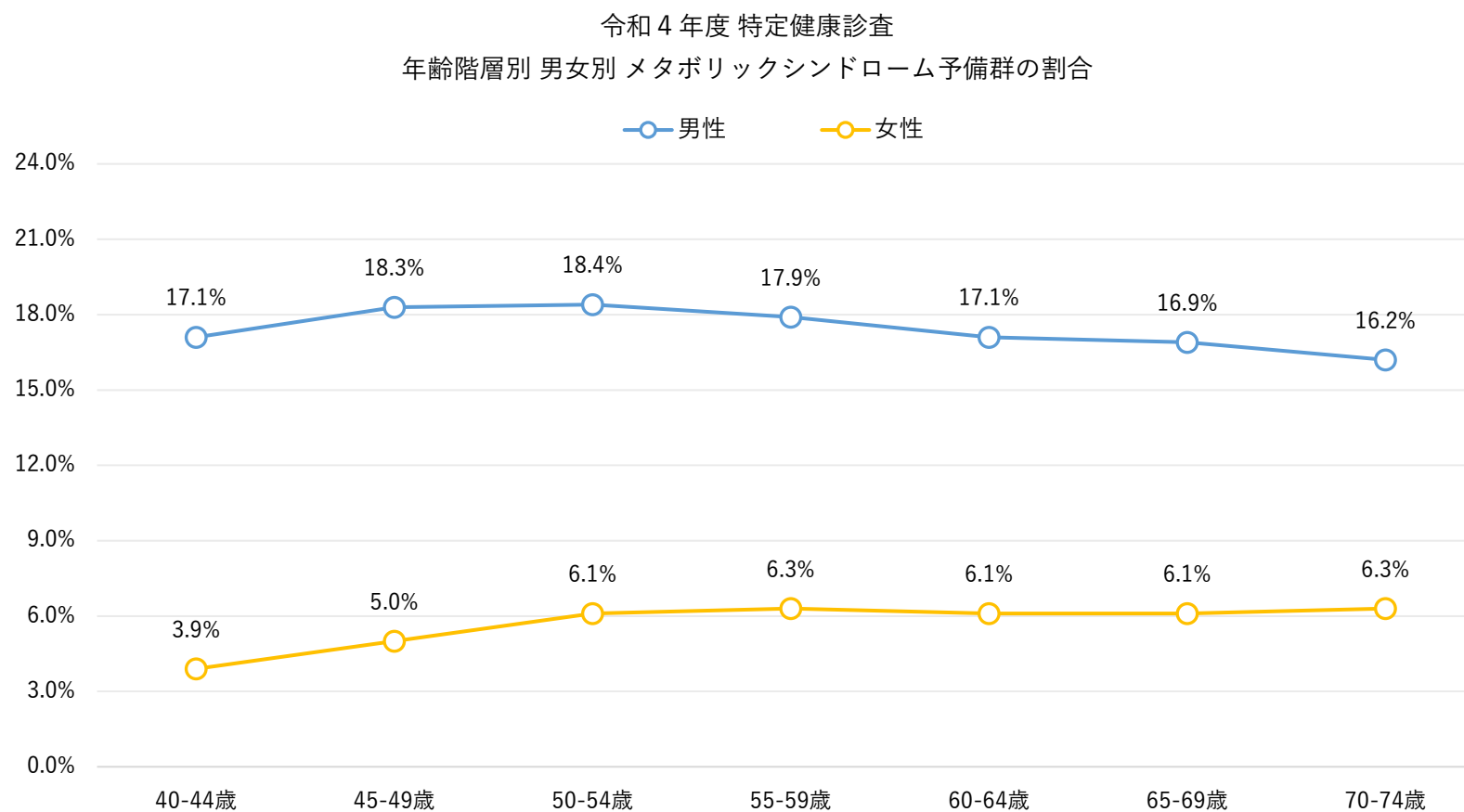


2) 女性

- 年齢階層別に予備群数をみると、50-54歳が4万7,000人と最も多く、次いで、55-59歳：3万8,000人、45-49歳：3万7,000人となっている。
- 年齢階層別に予備群の割合をみると、40-44歳：3.9%から45-49歳：5.0%と高くなり、50-54歳以降は年齢階層に大きな差はなく6.1～6.3%となっている。



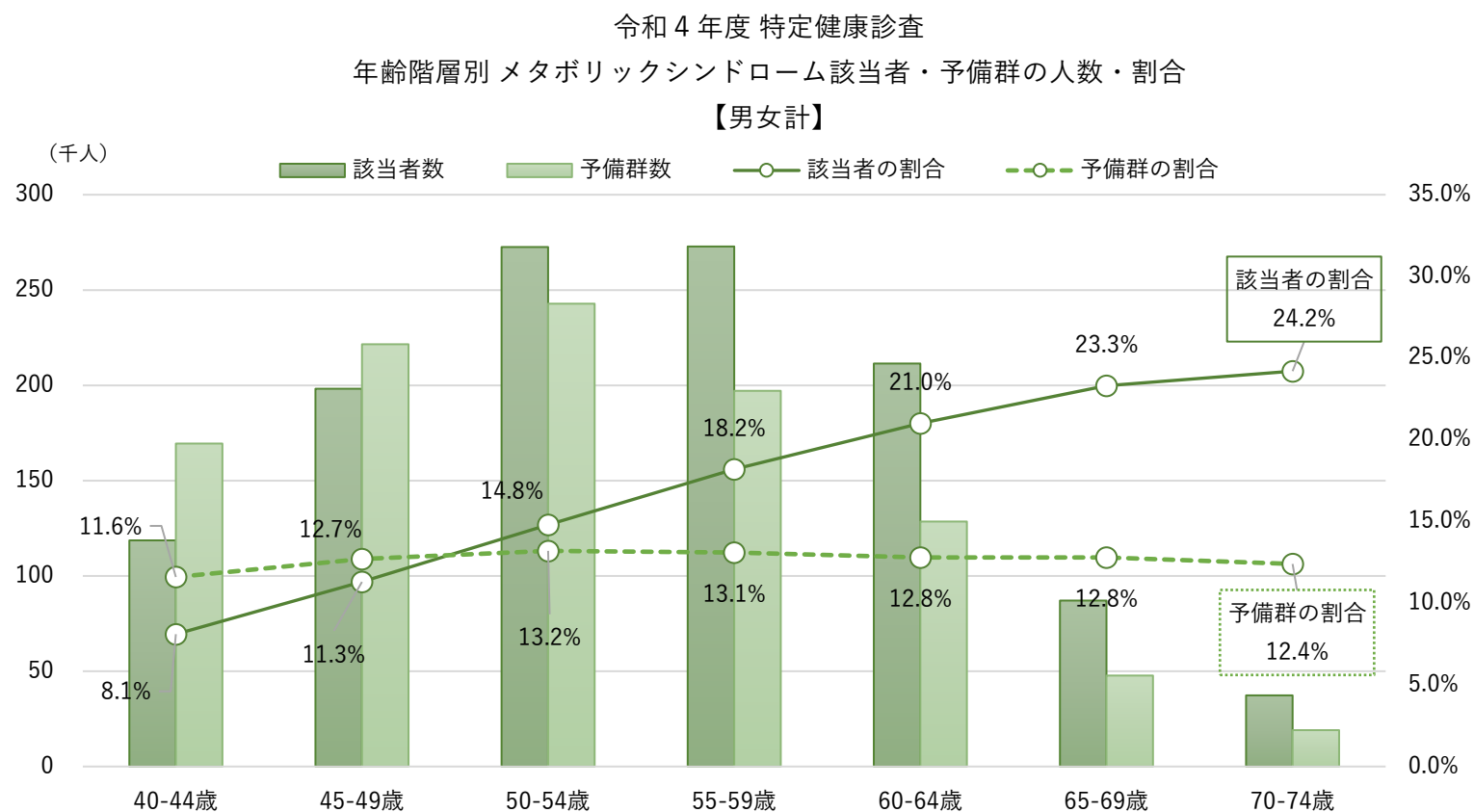
(参考) 年齢階層別 男女別 メタボリックシンドローム予備群の割合



(3) 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム全体の状況

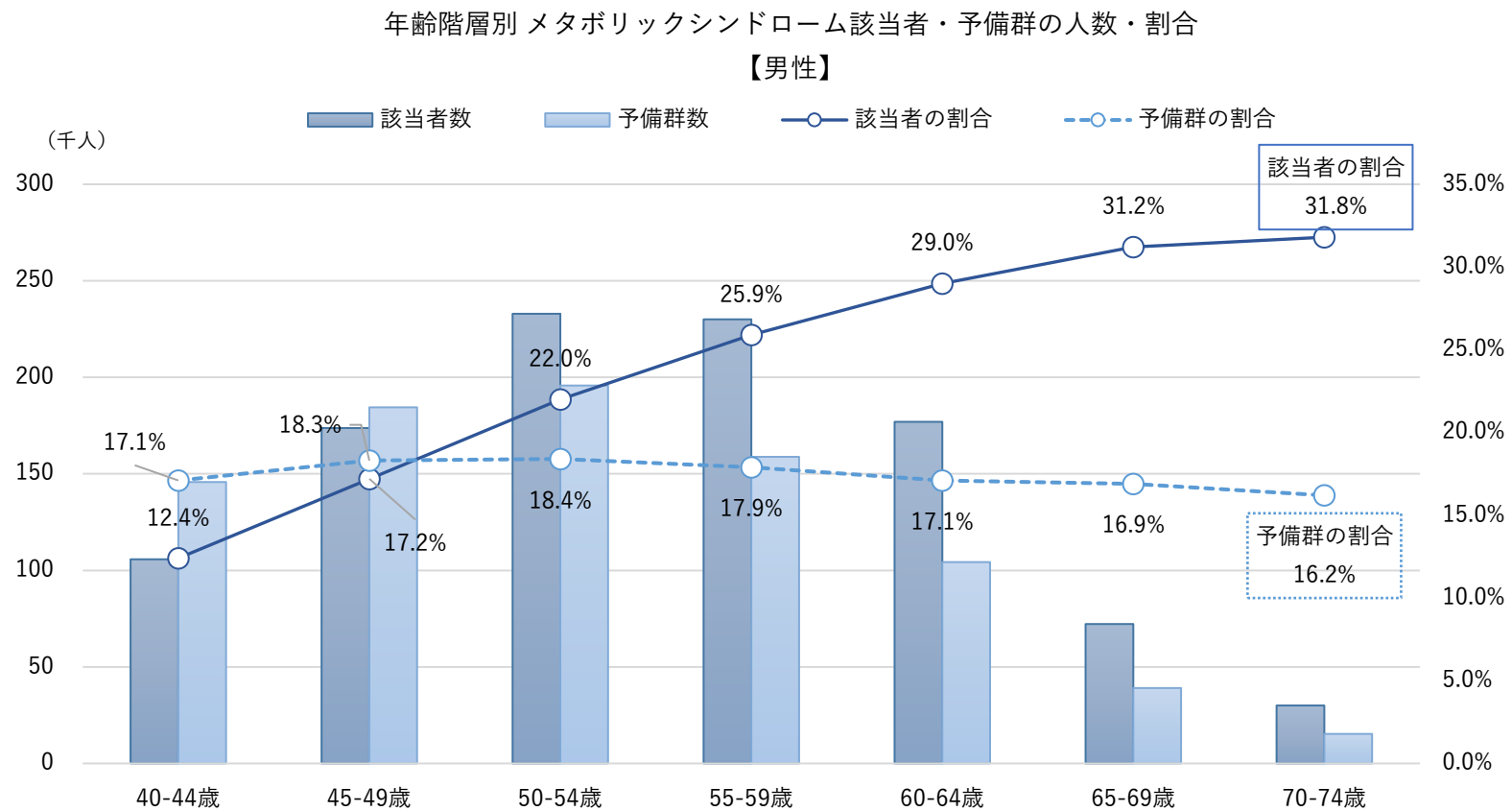
1) 男女計

- 年齢階層別に該当者・予備群の割合をみると、40歳台は予備群のほうが高く、50-54歳以降、該当者の割合のほうが高くなる。また、50-54歳以降では、年齢階層が上がるとともに予備群の割合は低くなっている。



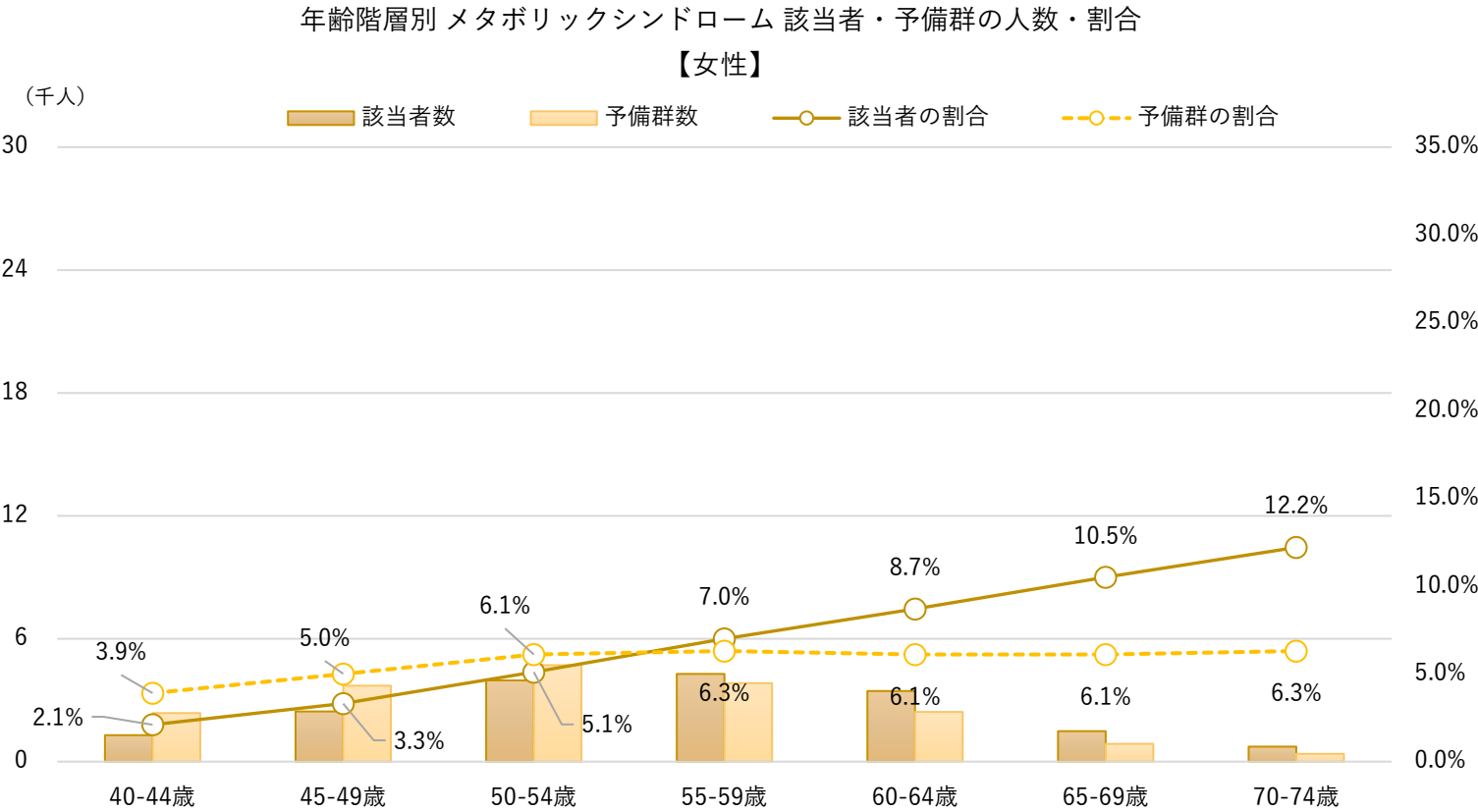
2) 男性

- 年齢階層別に該当者・予備群の割合をみると、40-44 歳、45-49 歳では予備群のほうが高く、50-54 歳以降は該当者のほうが高くなる。また、50-54 歳以降は年齢階層が上がるとともに予備群の割合は低くなる。



3) 女性

- 年齢階層別に該当者・予備群の割合をみると、40-44 歳、45-49 歳、50-54 歳は予備群の割合が高く、55-59 歳以降、該当者の割合のほうが高くなる。
- また、55-59 歳以降、予備群は概ね一定の割合となっているが、該当者は年齢階層が上がるとともに高くなる。



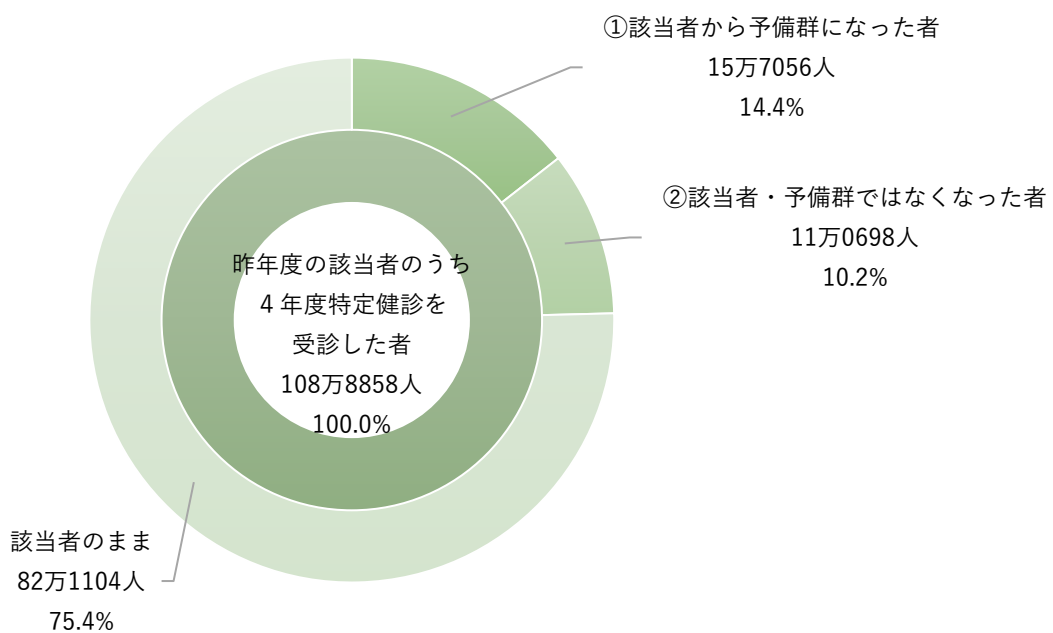
3. メタボリックシンドロームの減少率

(1) 該当者の減少率

1) 男女計

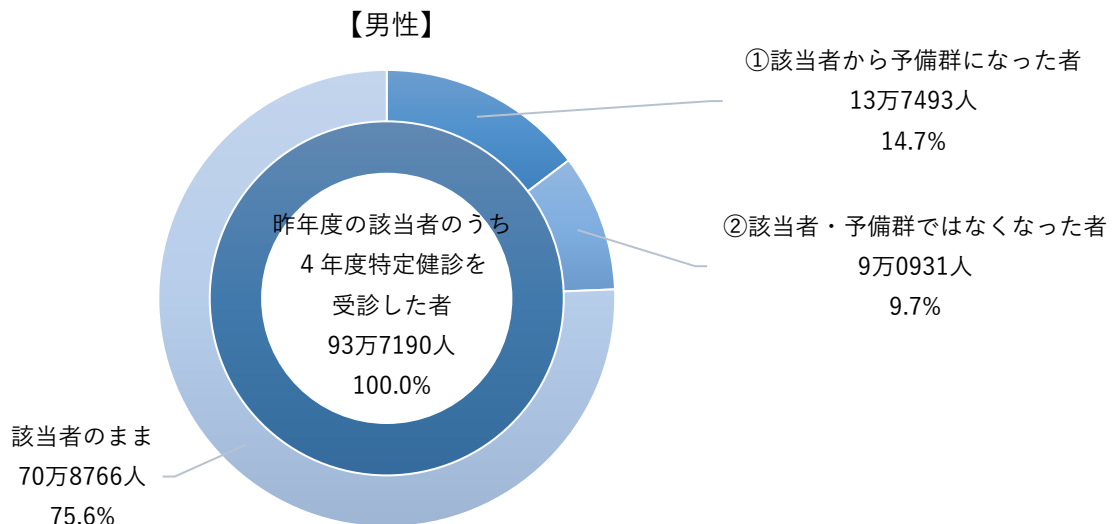
- 円グラフは、昨年度の該当者（＊3年度報告において該当者数に含まれた者のうち、4年度報告時点で報告する保険者を脱退した者を除く）のうち、4年度の特健診を受診した者の判定状況を示したものである。
- 昨年度の該当者 108 万 8,858 人のうち、①＜該当者から予備群になった者＞は 15 万 7,056 人（構成割合：14.4%）、②＜該当者・予備群ではなくなった者＞は 11 万 698 人（同 10.2%） ー となっており、該当者の減少数（①＋②）は 26 万 7,754 人、減少率は 24.6% となっている。

令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム該当者の減少率
【男女計】



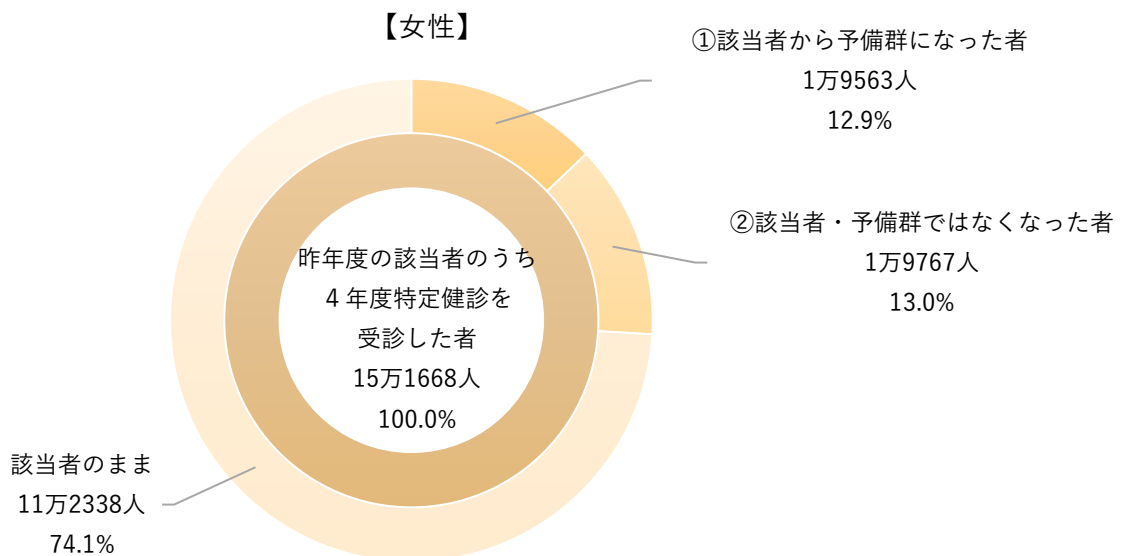
2) 男性

- 昨年度の該当 93 万 7,190 人のうち、①<該当者から予備群になった者>は 13 万 7,493 人（構成割合：14.7%）、②<該当者・予備群ではなくなった者>は 9 万 931 人（同 9.7%）—となっており、該当者の減少数（①+②）は 22 万 8,424 人、減少率は 24.4%となっている。



3) 女性

- 昨年度の該当者 15 万 1,668 人のうち、①<該当者から予備群になった者>は 1 万 9,563 人（構成割合：12.9%）、②<該当者・予備群ではなくなった者>は 1 万 9,767 人（同 13.0%）の 2 万人—となっており、該当者の減少数（①+②）は 3 万 9,330 人、減少率は 25.9%となっている。

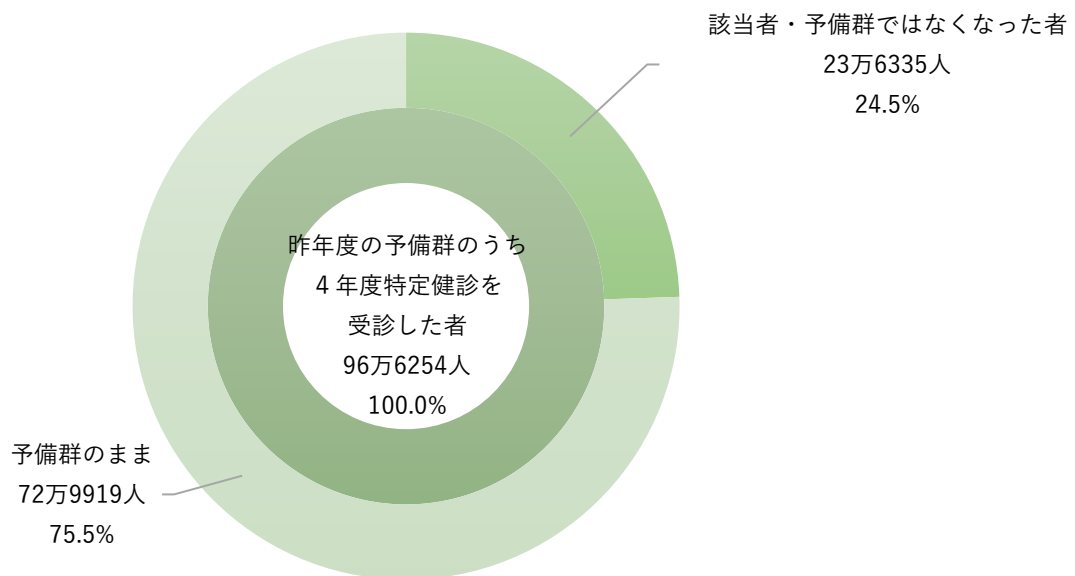


(2) 予備群の減少率

1) 男女計

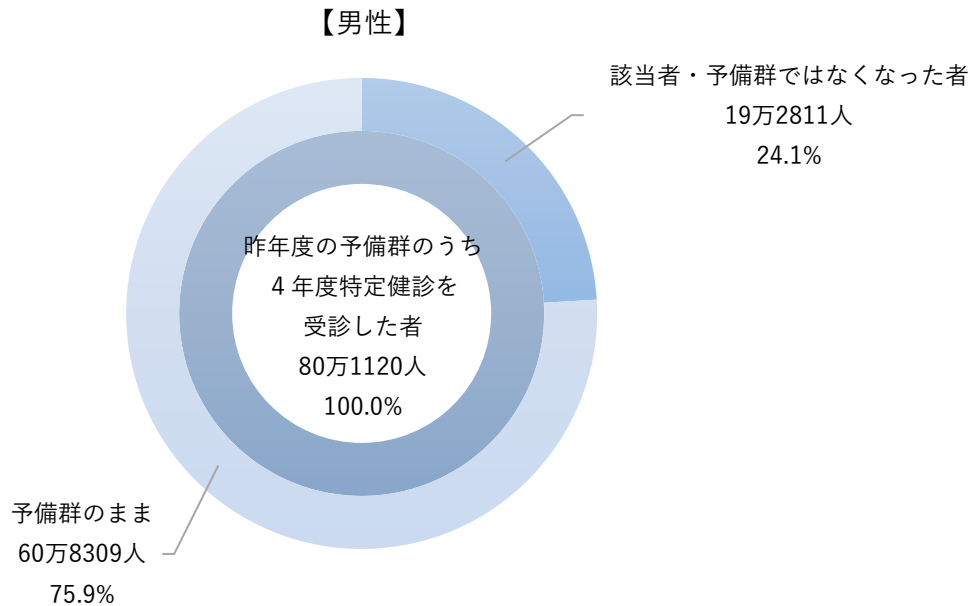
- 円グラフは、3年度の予備群(*3年度報告において予備群数に含まれた者のうち、4年度報告時点で報告する保険者を脱退した者を除く)のうち、4年度の特定健診を受診した者の判定状況を示したものである。
- 3年度の予備群 96万6,254人のうち、予備群から該当者・予備群ではなくなった者は23万6,335人で、予備群の減少率は24.5%となっている。

令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム予備群の減少率
【男女計】



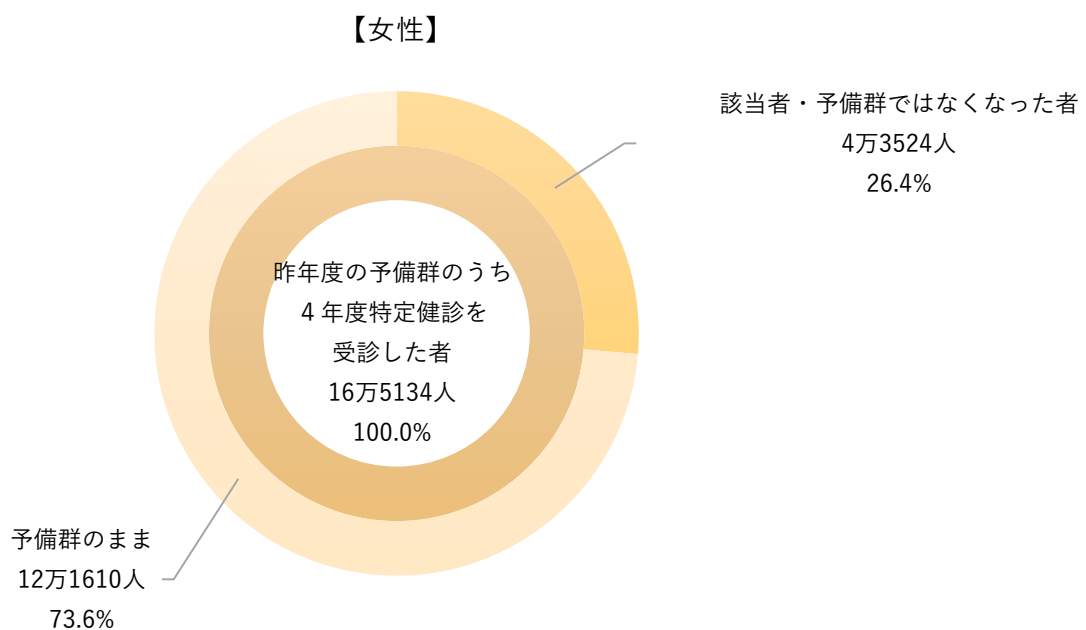
2) 男性

- 昨年度の予備群 80 万 1,120 人のうち、予備群から該当者・予備群ではなくなった者は 19 万 2,811 人で、予備群の減少率は 24.1%となっている。



3) 女性

- 昨年度の予備群 16 万 5,134 人のうち、①予備群から該当者・予備群ではなくなった者は 4 万 3,524 人で、予備群の減少率は 26.4%となっている。

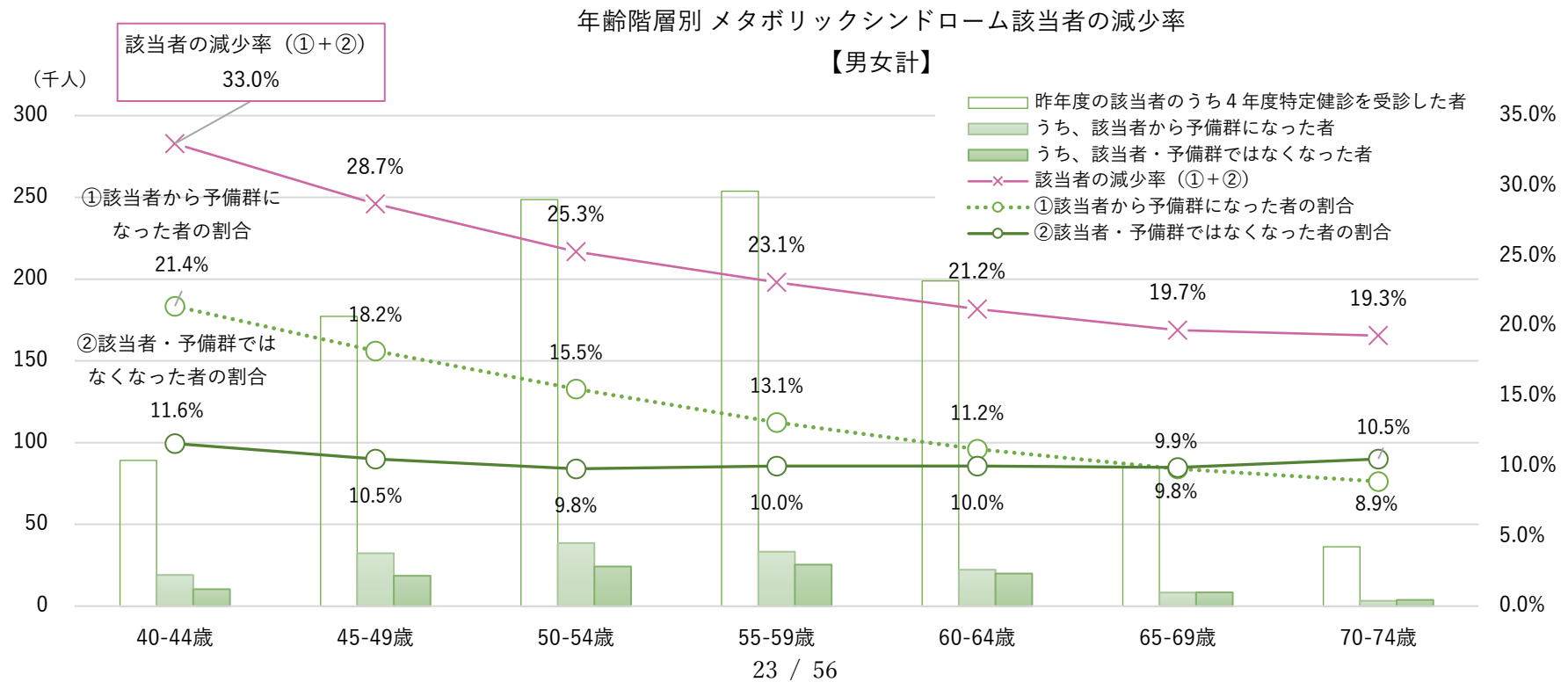


4. 年齢階層別にみたメタボリックシンドロームの減少率

(1) 該当者の減少率

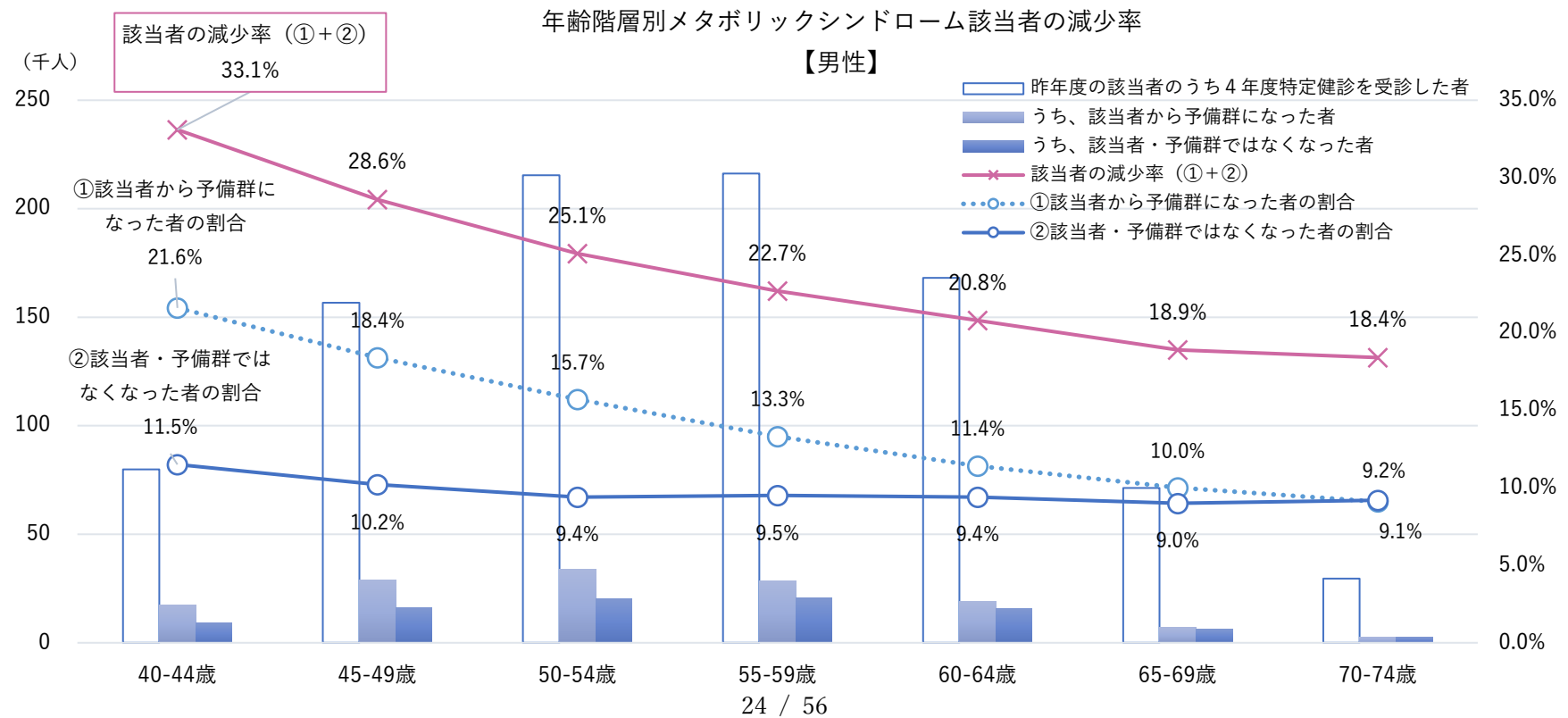
1) 男女計

- 年齢階層別に該当者の減少率をみると、年齢階層が上がるとともに減少率は低くなり、40-44 歳が 33.0%と最も高く、次いで、45-49 歳：28.7%、50-54 歳：25.3%となっている。
- 減少率のうち、①該当者から予備群になった者の割合は、40-44 歳が 21.4%と最も高く、次いで、45-49 歳：18.2%、50-54 歳：15.5%となっている。また、②該当者・予備群ではなくなった者の割合は、40-44 歳が 11.6%と最も高く、45-49 歳以降は年齢階層ごとに大きな差はなく概ね 10%程度となっている。



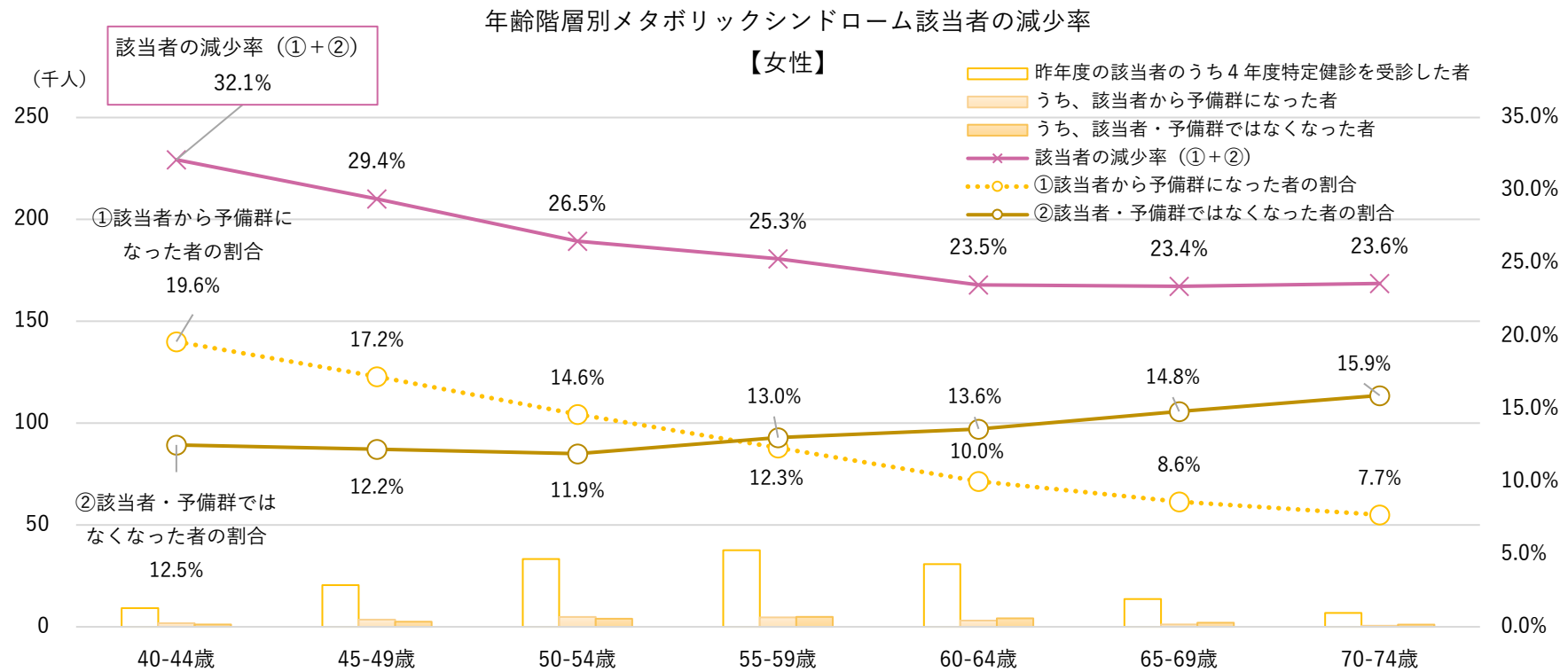
2) 男性

- 年齢階層別に該当者の減少率をみると、年齢階層が上がるとともに減少率は低くなり、40-44 歳が 33.0%と最も高く、次いで、45-49 歳：28.7%、50-54 歳：25.1%となっている。
- 減少率のうち、①該当者から予備群になった者の割合は、40-44 歳が 21.6%と最も高く、次いで、45-49 歳：18.4%、50-54 歳：15.7%となっている。また、②該当者・予備群ではなくなった者の割合は、40-44 歳が 11.5%と最も高く、45-49 歳以降は年齢階層ごとに大きな差はなく 9～10%程度となっている。



3) 女性

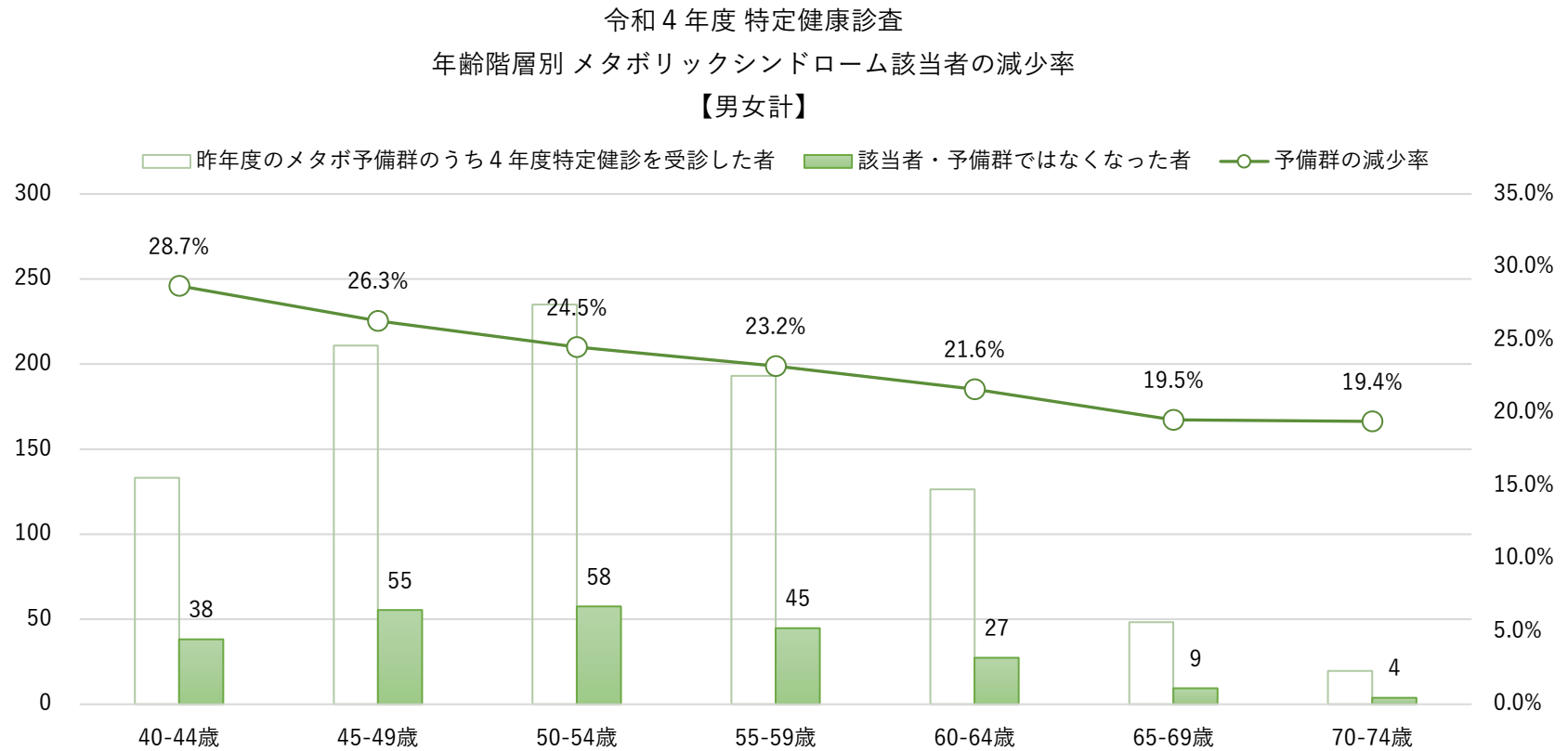
- 年齢階層別に該当者の減少率をみると、年齢階層が上がるとともに減少率は低くなり、40-44 歳が 32.1%と最も高く、次いで、45-49 歳：29.4%、50-54 歳：26.5%となっている。
- 減少率のうち、①該当者から予備群になった者の割合は、40-44 歳が 19.6%と最も高く、次いで、45-49 歳：17.2%、50-54 歳：14.6%となっている。また、②該当者・予備群ではなくなった者の割合は、年齢階層が上がるとともに高くなり、70-74 歳が 15.9%と最も高く、次いで、65-69 歳：14.8%、60-64 歳：13.6%となっている。



(2) 予備群の減少率

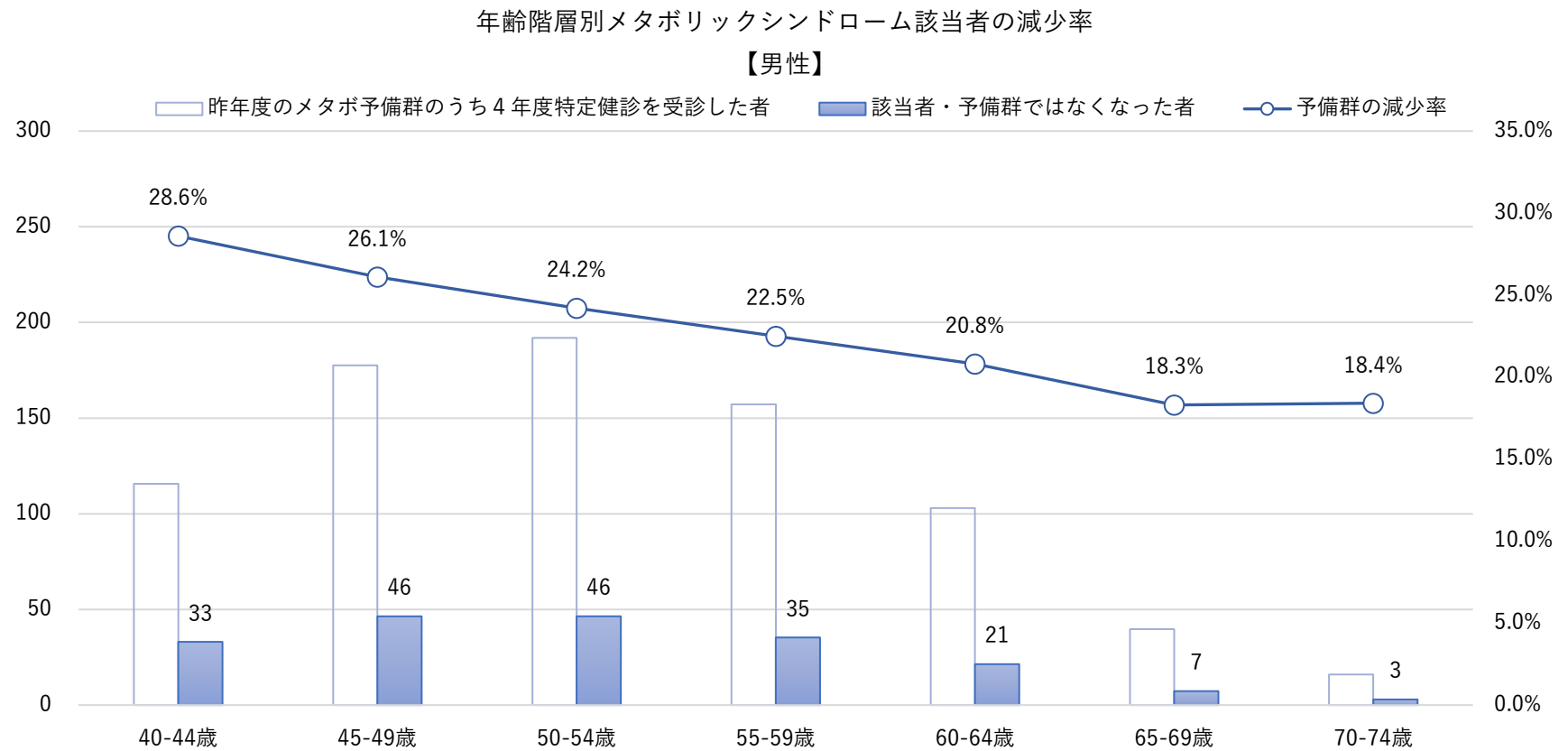
1) 男女計

- 年齢階層別に予備群の減少率をみると、年齢階層が上がるとともに減少率は低くなり、40-44 歳が 28.7%と最も高く、次いで、45-49 歳：26.3%、50-54 歳：24.5%となっている。



2) 男性

- 年齢階層別に予備群の減少率をみると、年齢階層が上がるとともに減少率はおおむね低くなり、40-44 歳が 28.6%と最も高く、次いで、45-49 歳：26.1%、50-54 歳：24.2%となっている。

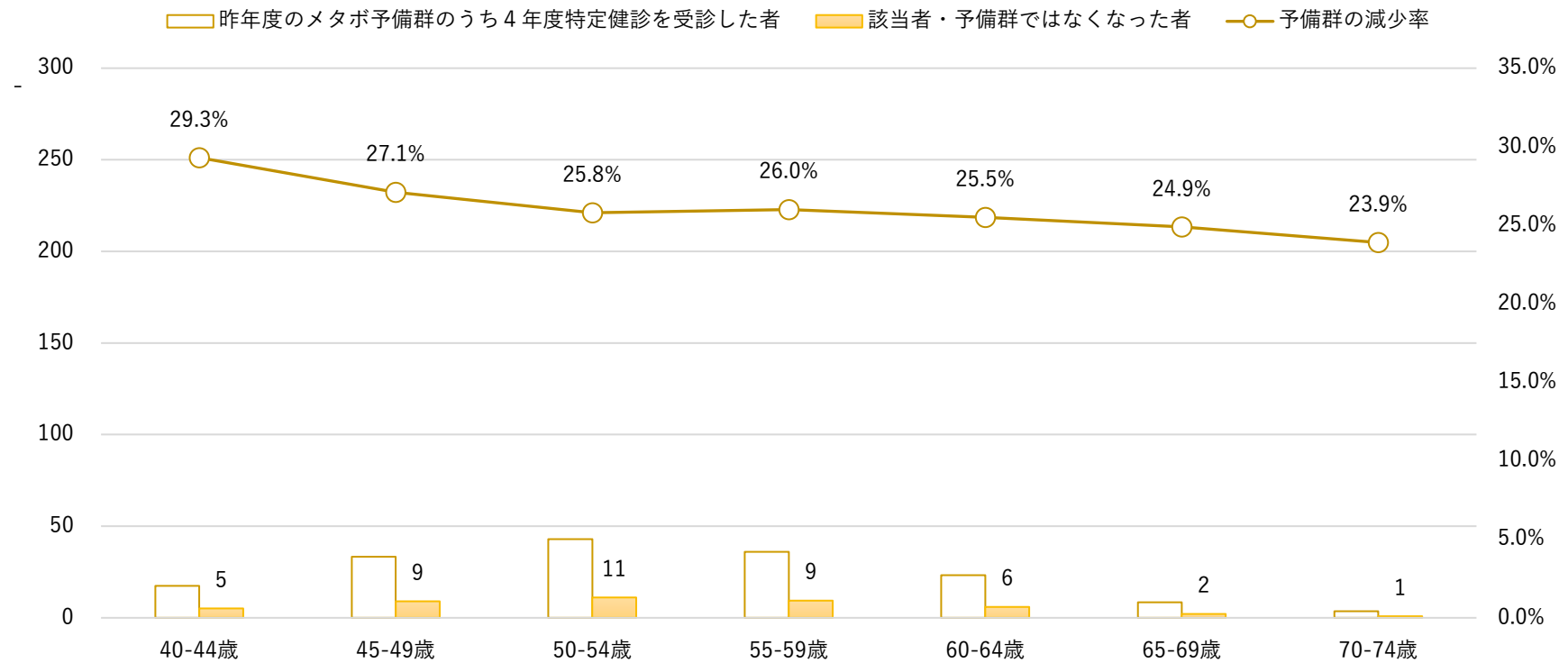


3) 女性

- 年齢階層別に予備群の減少率をみると、40-44 歳：29.3%、45-49 歳：27.1%と 40 歳台でとくに高くなっており、50-54 歳以降は、年齢階層が上がるにつれやや低くなる。

メタボリックシンドローム予備群の減少率

【女性】



■ 第Ⅱ部 メタボリックシンドローム判定における有所見の状況

集計対象：498 組合（特定健診受診者：399 万 5,888 人）

1. 「腹囲」有所見者とメタボリックシンドローム判定の有所見要因
 2. 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム【該当者】の有所見要因
 3. 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム【予備群】の有所見要因
 4. メタボリックシンドローム改善の有所見要因
 - （1）該当者から＜予備群になった者＞の改善した有所見
 - （2）該当者から＜該当者・予備群ではなくなった者＞の改善した有所見
 - （3）予備群から＜該当者・予備群ではなくなった者＞の改善した有所見
- 【参考】予備群から＜該当者になった者＞の有所見要因

1. メタボリックシンドローム判定の有所見要因

(1) 男女計

- 特定健診受診者（399万5,900人）に占める腹囲基準値以上の【腹囲】有所見者の割合は35.1%で、内訳をみると、①【腹囲】のみ有所見者（メタボリックシンドローム非該当者）：7.0%、②予備群：12.9%、③該当者が15.2%—となっている。

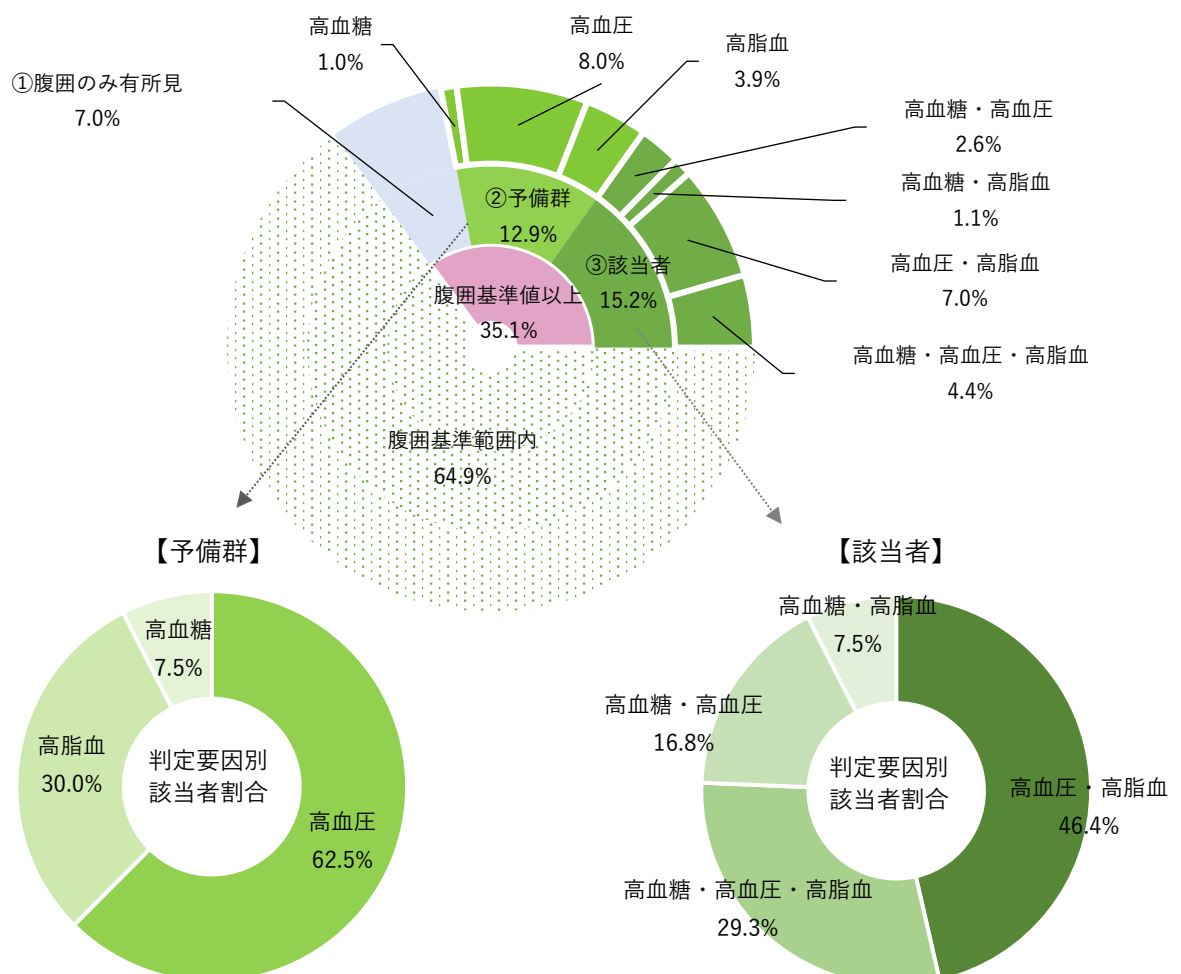
（メタボリックシンドローム判定要因別有所見者割合）

- 予備群の判定要因別有所見者割合をみると、【高血圧】の有所見者が62.5%と最も高く、次いで、【高脂血】が30.0%、【高血糖】：7.5%となっており、予備群の約6割が【高血圧】を要因としている。
- 該当者の判定要因別有所見者割合をみると、【高血圧・高脂血】の有所見者が48.4%と最も高く、次いで、【高血糖・高血圧・高脂血】が29.3%、【高血糖・高血圧】：16.8%、【高血糖・高脂血】が7.5%となっており、該当者の約5割が【高血圧・高脂血】を要因としている。

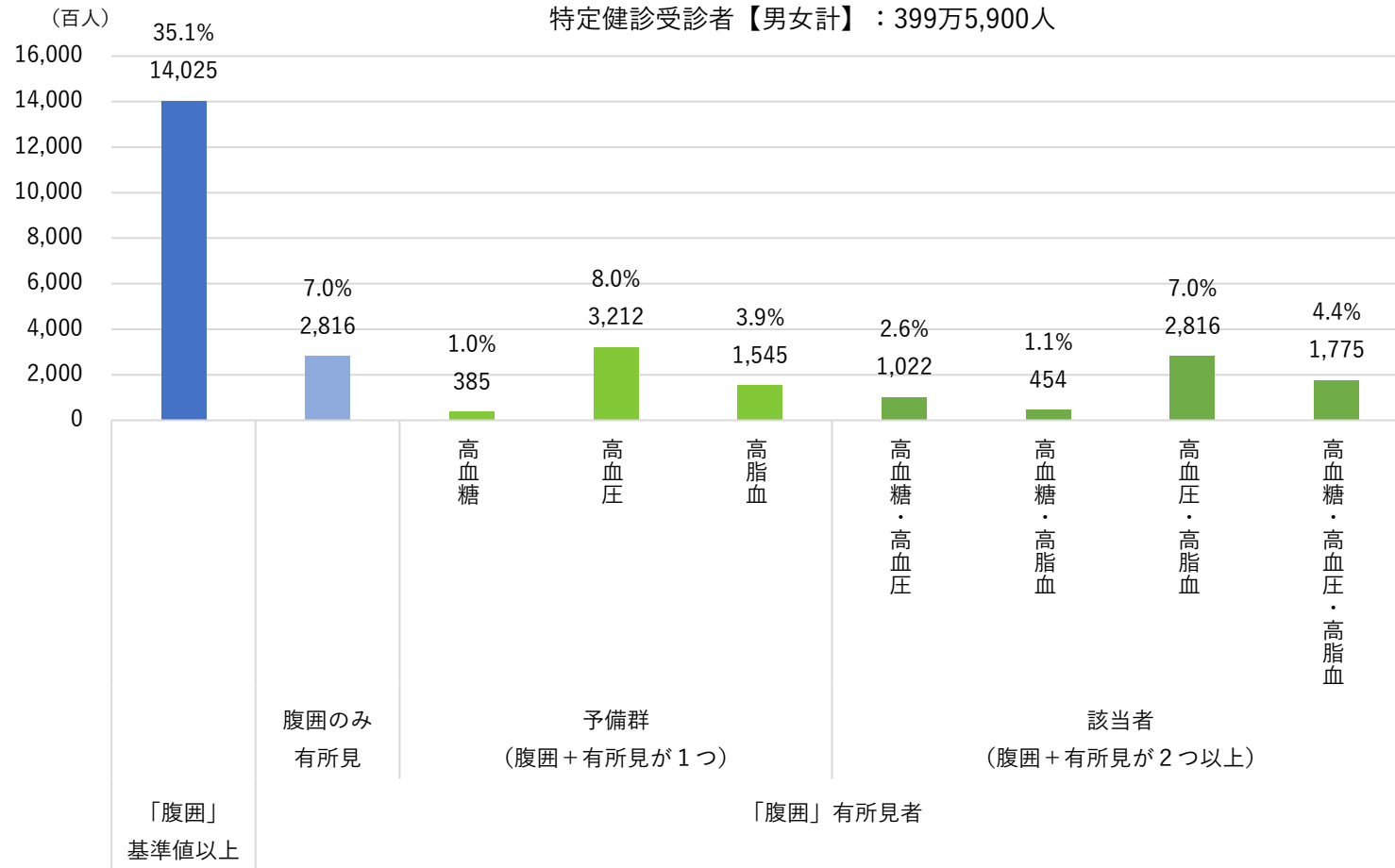
令和4年度 特定健康診査

特定健診受診者に占めるメタボリックシンドローム判定区分別 要因別 有所見者割合

【男女計】



令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム判定区分別 要因別 有所見者割合・人数
特定健診受診者【男女計】：399万5,900人

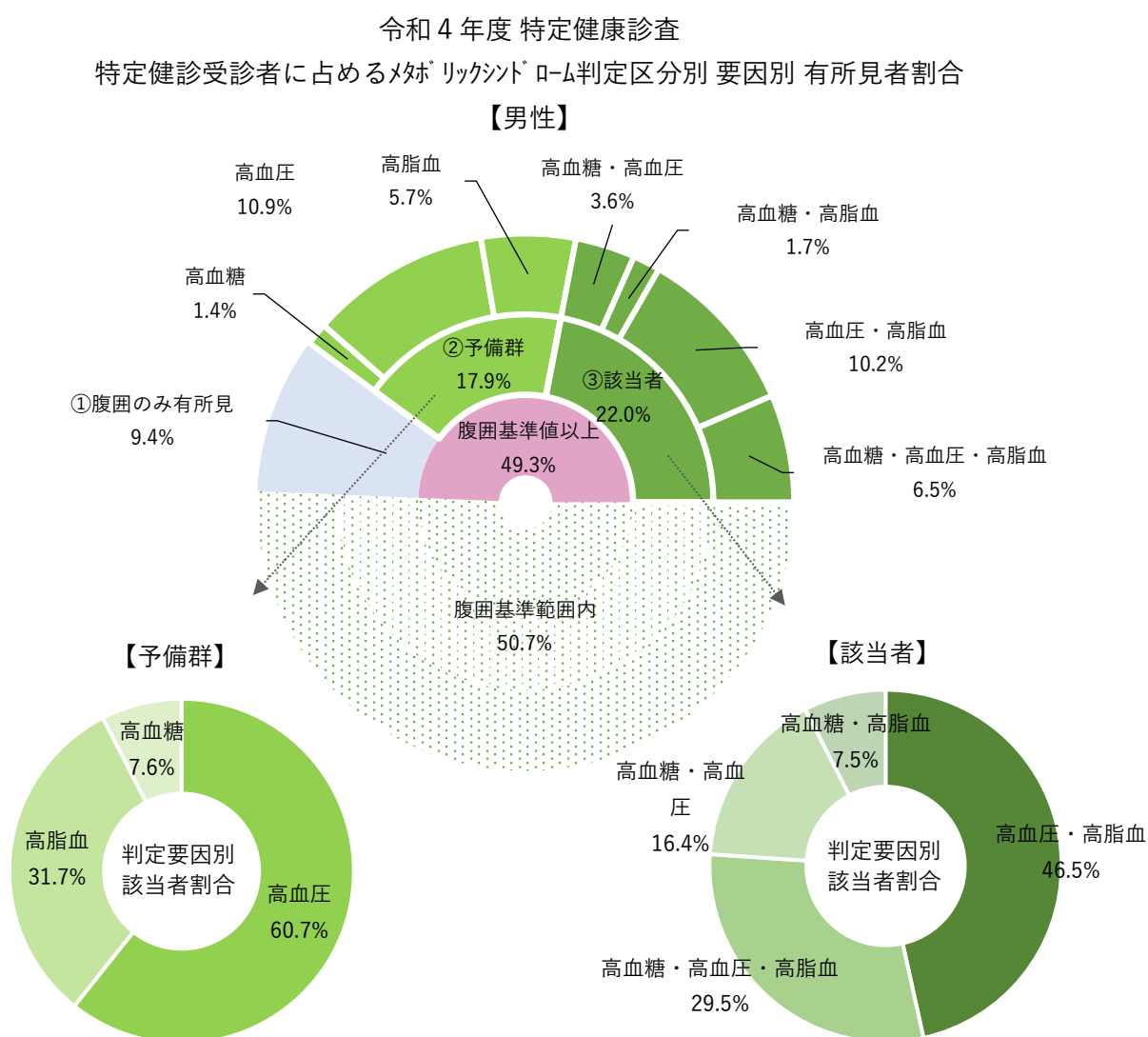


(2) 男性

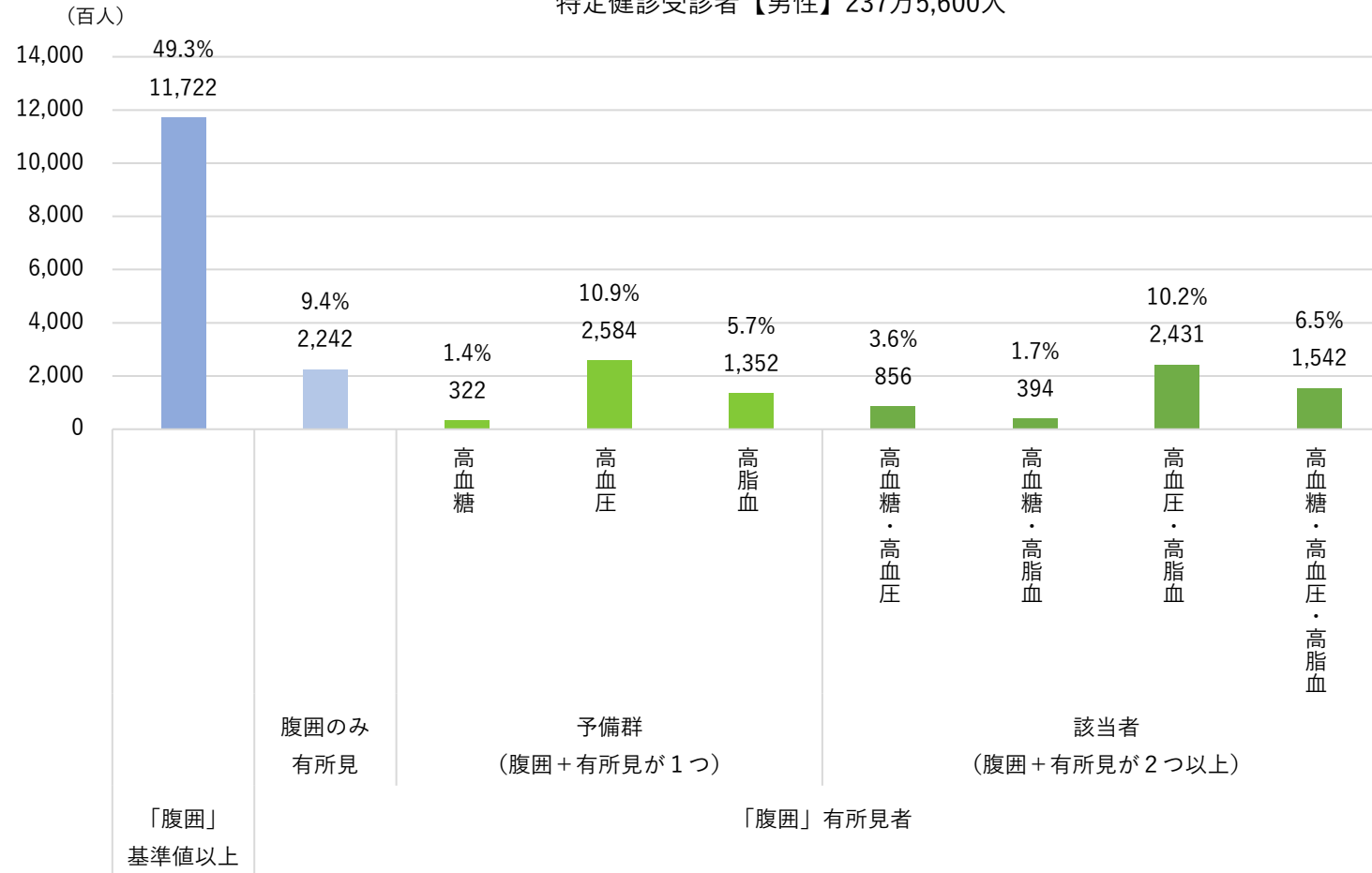
- 特定健診受診者（237 万 5,600 人）に占める腹囲基準値以上の【腹囲】有所見者の割合は 49.3%で、内訳をみると、①【腹囲】のみ有所見者（メタリックシフト・ロム非該当者）：9.4%、②予備群：17.9%、③該当者：22.0%—となっている。

（メタリックシフト・ロム判定要因別有所見者割合）

- 予備群の判定要因別有所見者割合をみると、【高血圧】の有所見者が 60.7%と最も高く、次いで、【高脂血】が 31.7%、【高血糖】が 7.6%となっており、予備群の約 6 割が【高血圧】を要因としている。
- 該当者の判定要因別有所見者割合をみると、【高血圧・高脂血】の有所見者が 46.5%と最も高く、次いで、【高血糖・高血圧・高脂血】が 29.5%、【高血糖・高血圧】が 16.4%、【高血糖・高脂血】が 7.5%となっており、該当者の約 5 割が【高血圧・高脂血】を要因としている。



令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム判定区分別 要因別 有所見者割合・人数
特定健診受診者【男性】237万5,600人

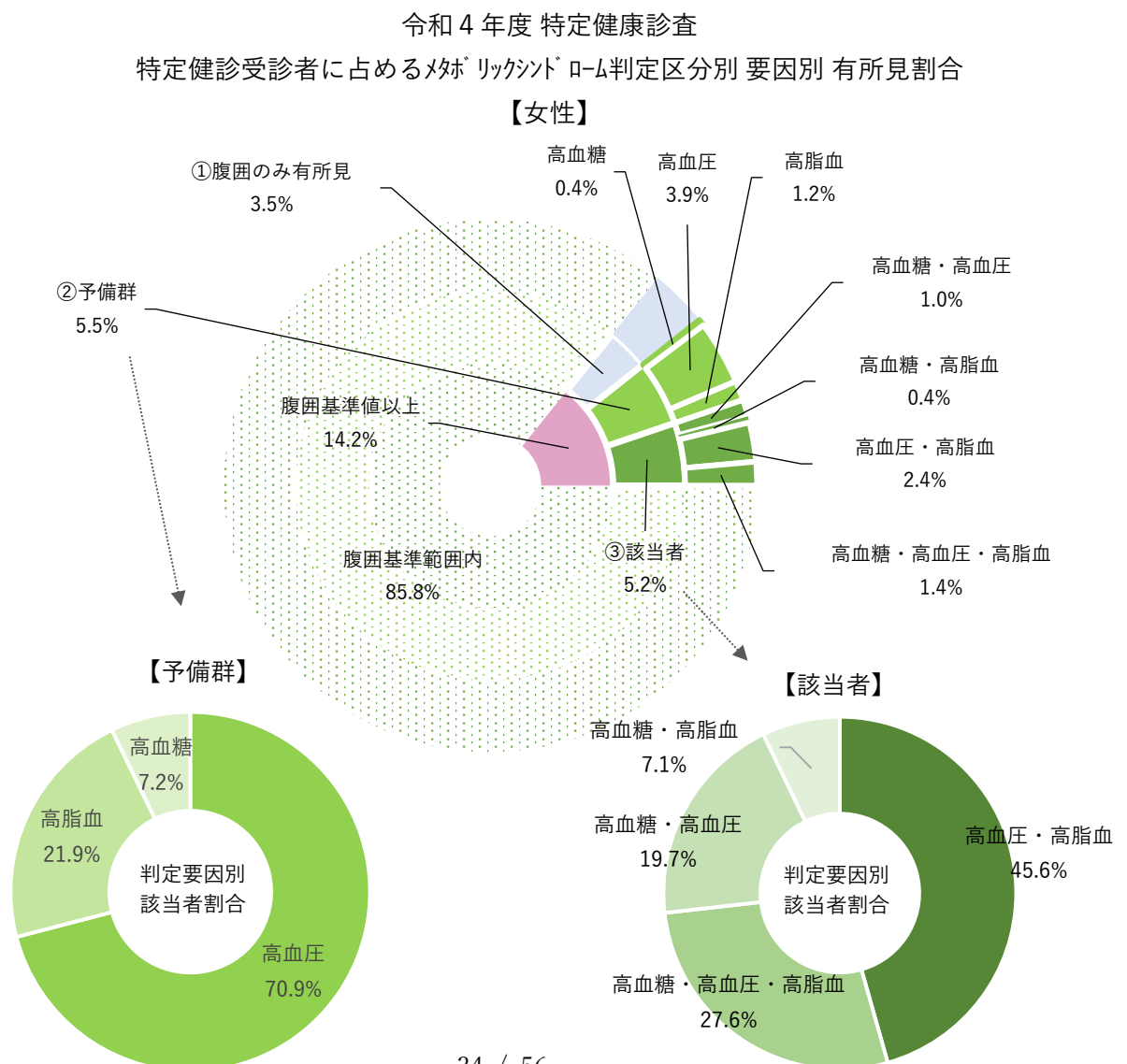


(2) 女性

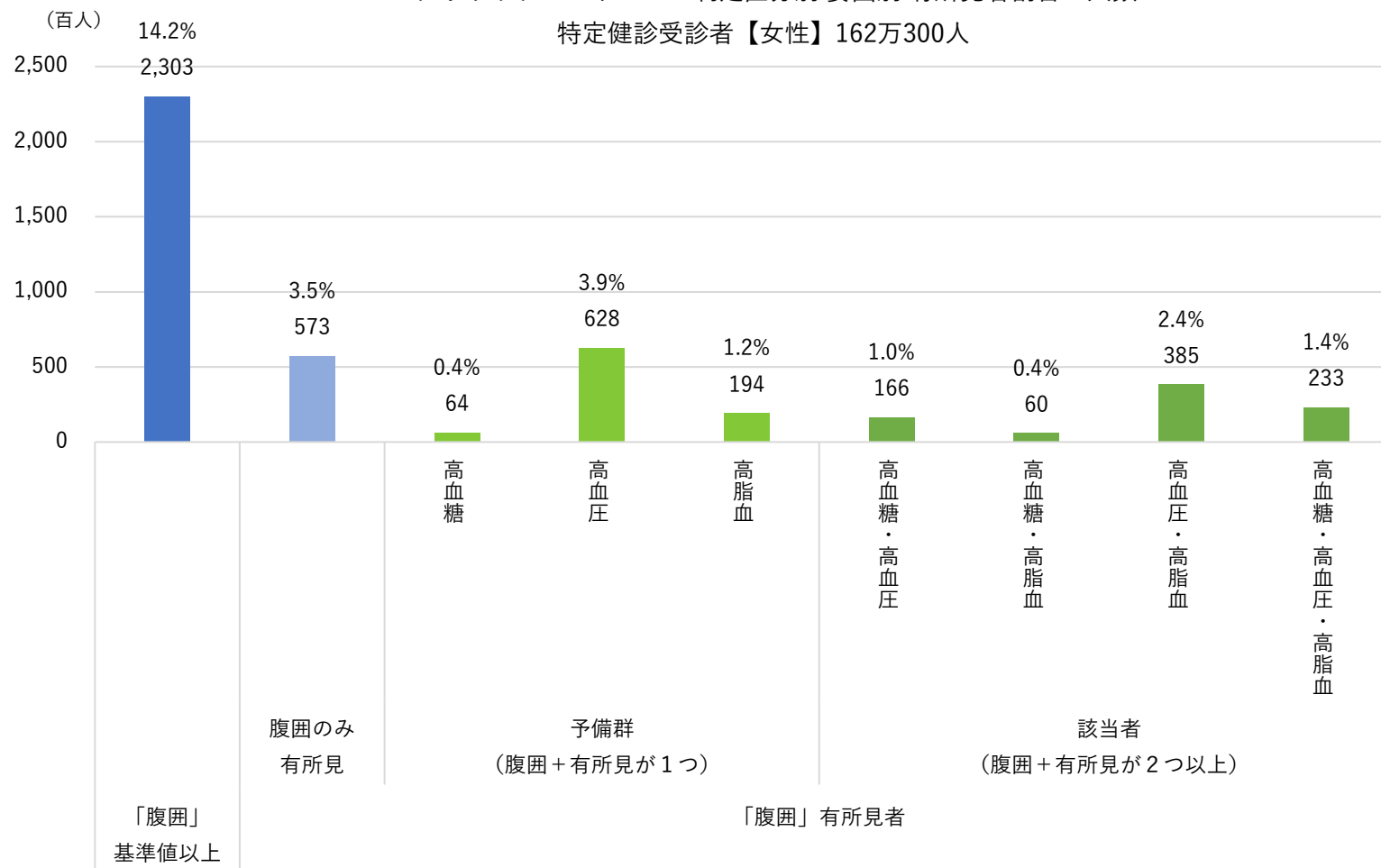
- 特定健診受診者（162 万 300 人）に占める【腹囲】基準値以上の【腹囲】有所見者の割合は 14.2%で、内訳をみると、①【腹囲】のみ有所見者（メタリック・ロム非該当者）：3.5%、②予備群：5.5%、③該当者：5.2%—となっている。

（メタリック・ロム判定要因別有所見者割合）

- 予備群の要因別該当者割合をみると、【高血圧】の有所見者が 70.9%と最も高く、次いで、【高脂血】：21.9%、【高血糖】：7.2%となっており、予備群の約 7 割が【高血圧】を要因としている。
- 該当者の要因別有所見者割合をみると、【高血圧・高脂血】の有所見者が 45.6%と最も高く、次いで、【高血糖・高血圧・高脂血】：27.6%、【高血糖・高血圧】：19.7%、【高血糖・高脂血】：7.1%となっており、該当者の約 5 割が【高血圧・高脂血】を要因としている。



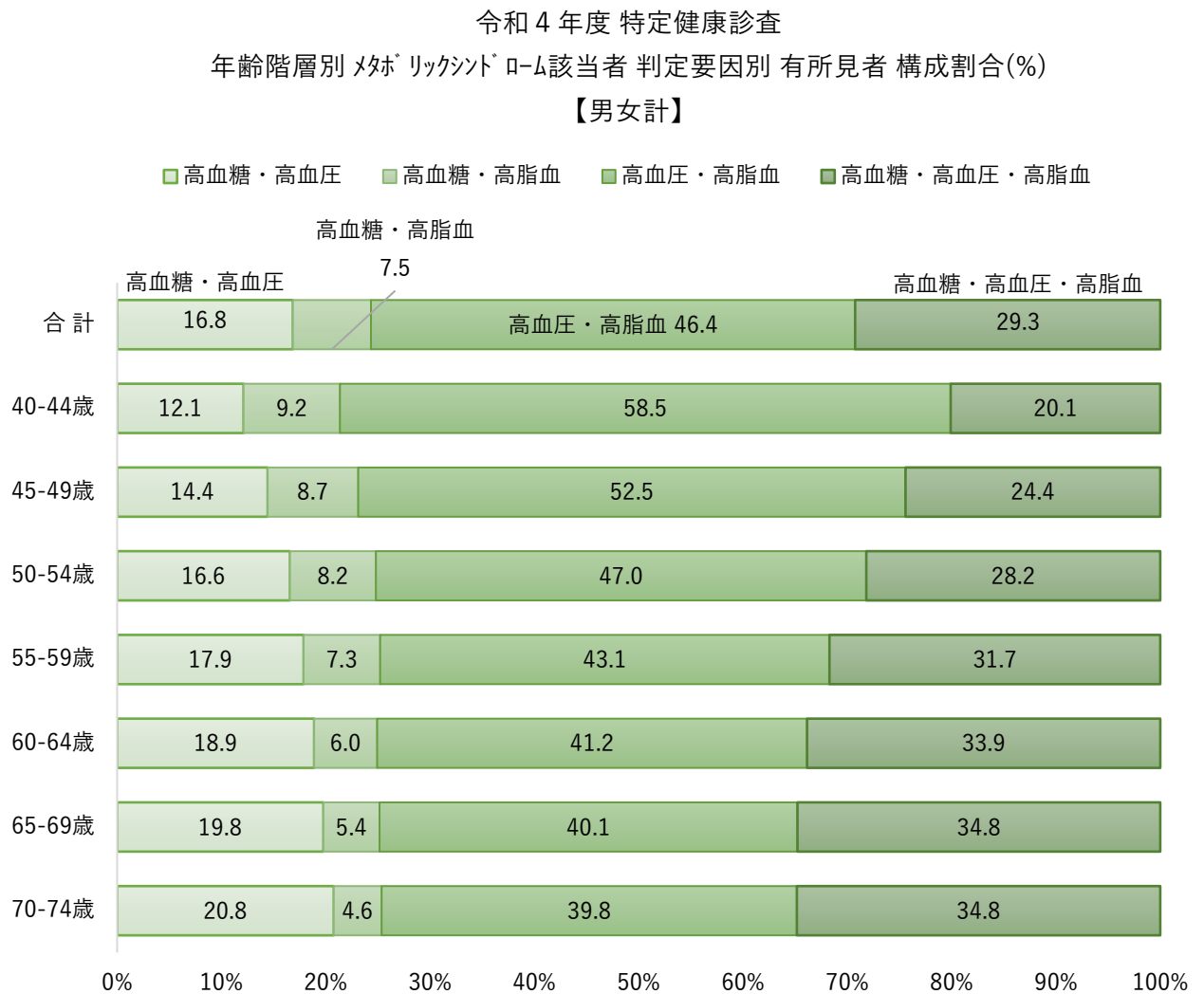
令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム判定区分別 要因別 有所見者割合・人数
特定健診受診者【女性】162万300人



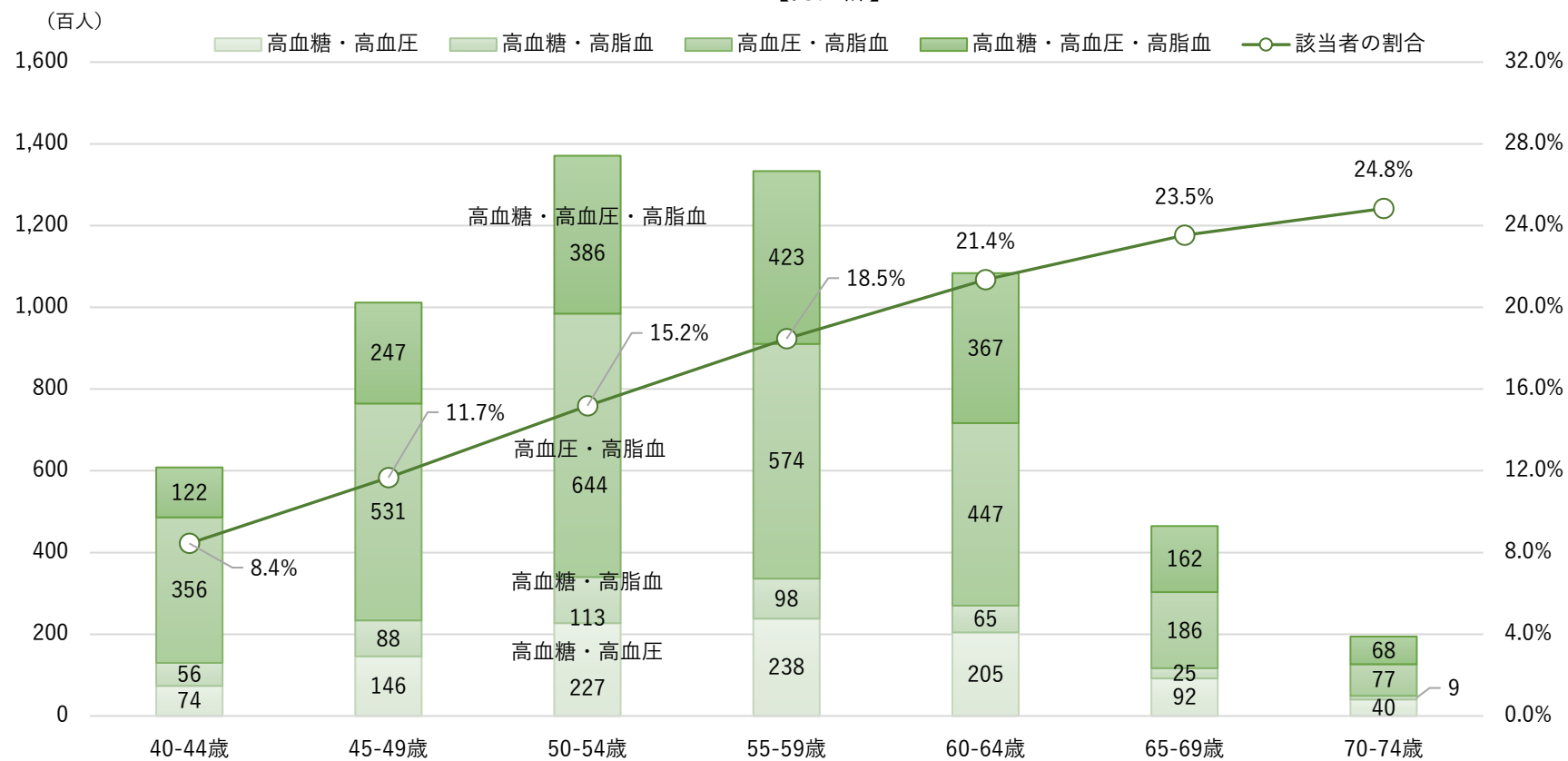
2. 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム【該当者】の有所見要因

(1) 男女計

- 年齢階層別に該当者の判定要因別有所見者の構成割合をみると、年齢が高くなるにつれ、【高血糖・高血圧】及び【高血糖・高血圧・高脂血】の有所見者の割合が高くなり、【高血糖・高脂血】及び【高血圧・高脂血】の有所見者の割合が低くなっている。



令和4年度 特定健康診査
年齢階層別メタリックシールド該当者 判定要因別有所見者数及び該当者の割合
【男女計】

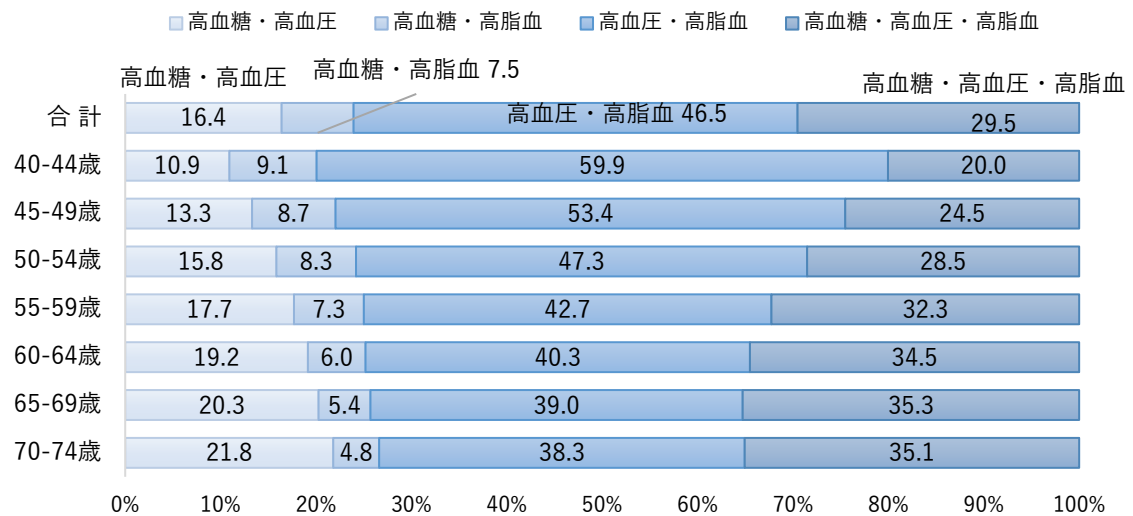


(2) 男性

- 男性では、年齢が高くなるにつれ、【高血糖・高血圧】及び【高血糖・高血圧・高脂血】の有所見者の割合が高くなり、【高血糖・高脂血】及び【高血圧・高脂血】の有所見者の割合が低くなっている。

年齢階層別メタリックシンドローム該当者 判定要因別有所見者 構成割合(%)

【男性】

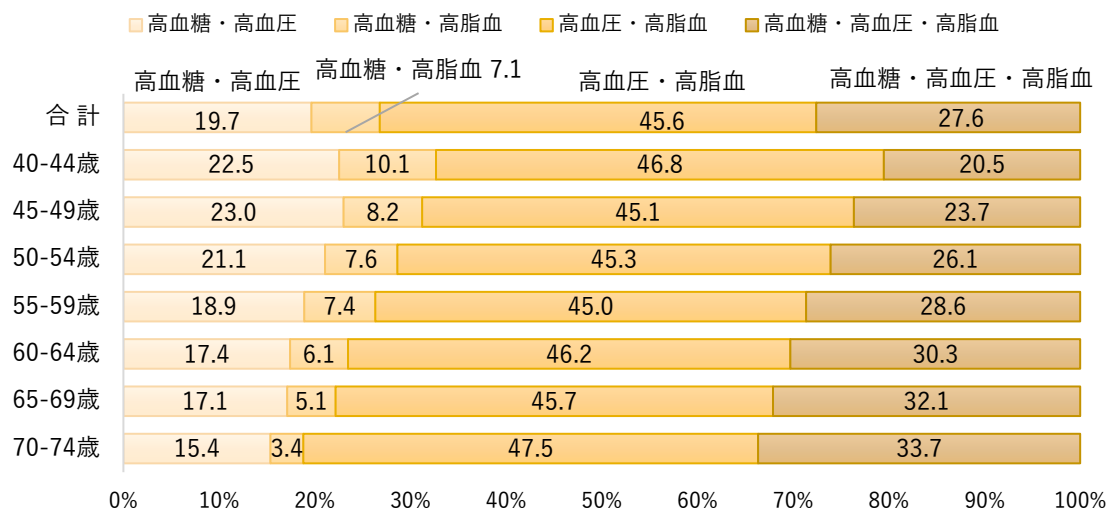


(3) 女性

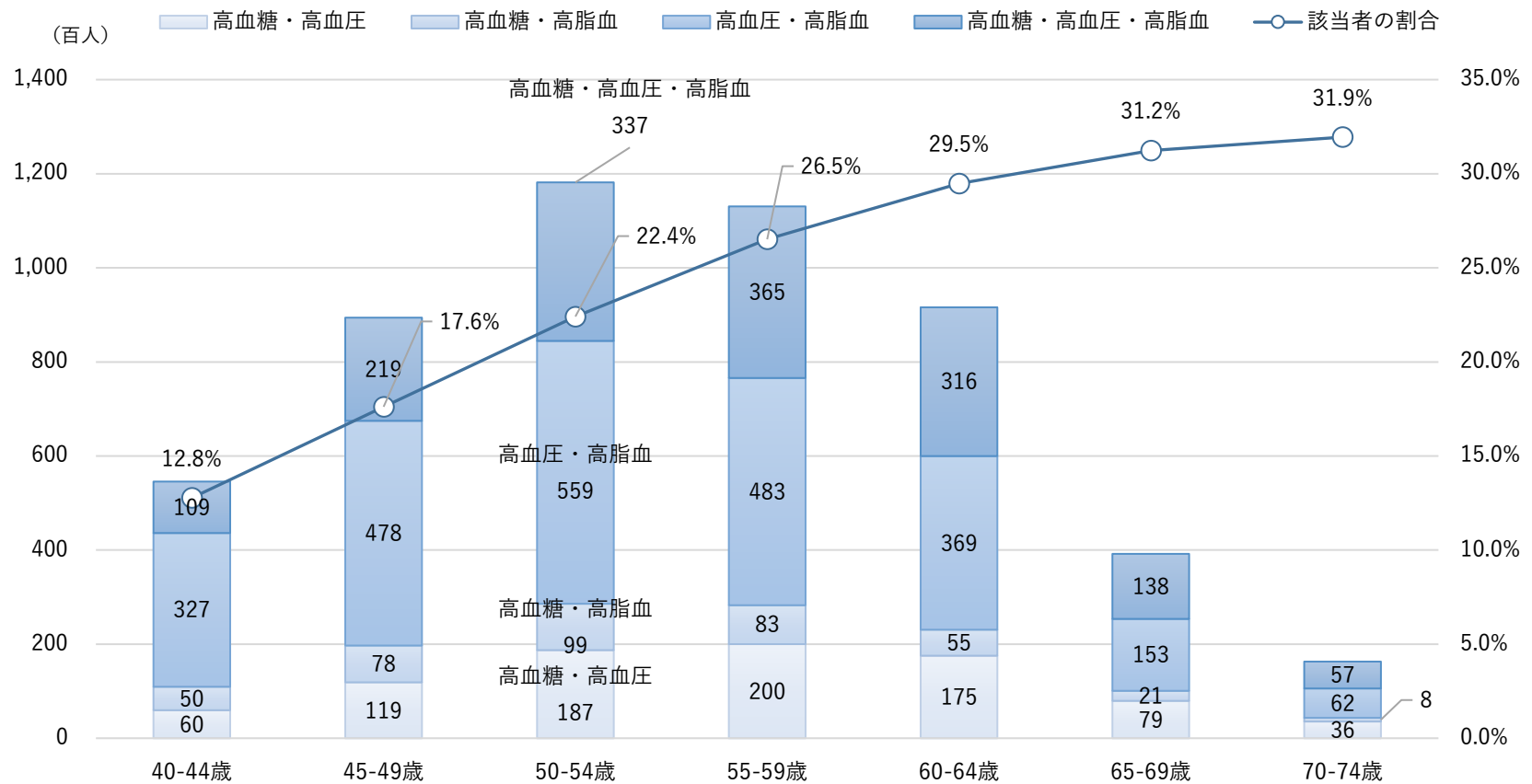
- 女性では、年齢が高くなるにつれ、【高血圧・高脂血】及び【高血糖・高血圧・高脂血】の有所見者の割合が高くなり、【高血糖・高血圧】及び【高血糖・高脂血】の有所見者の割合が低くなっている。

年齢階層別メタリックシンドローム該当者 判定要因別有所見者 構成割合(%)

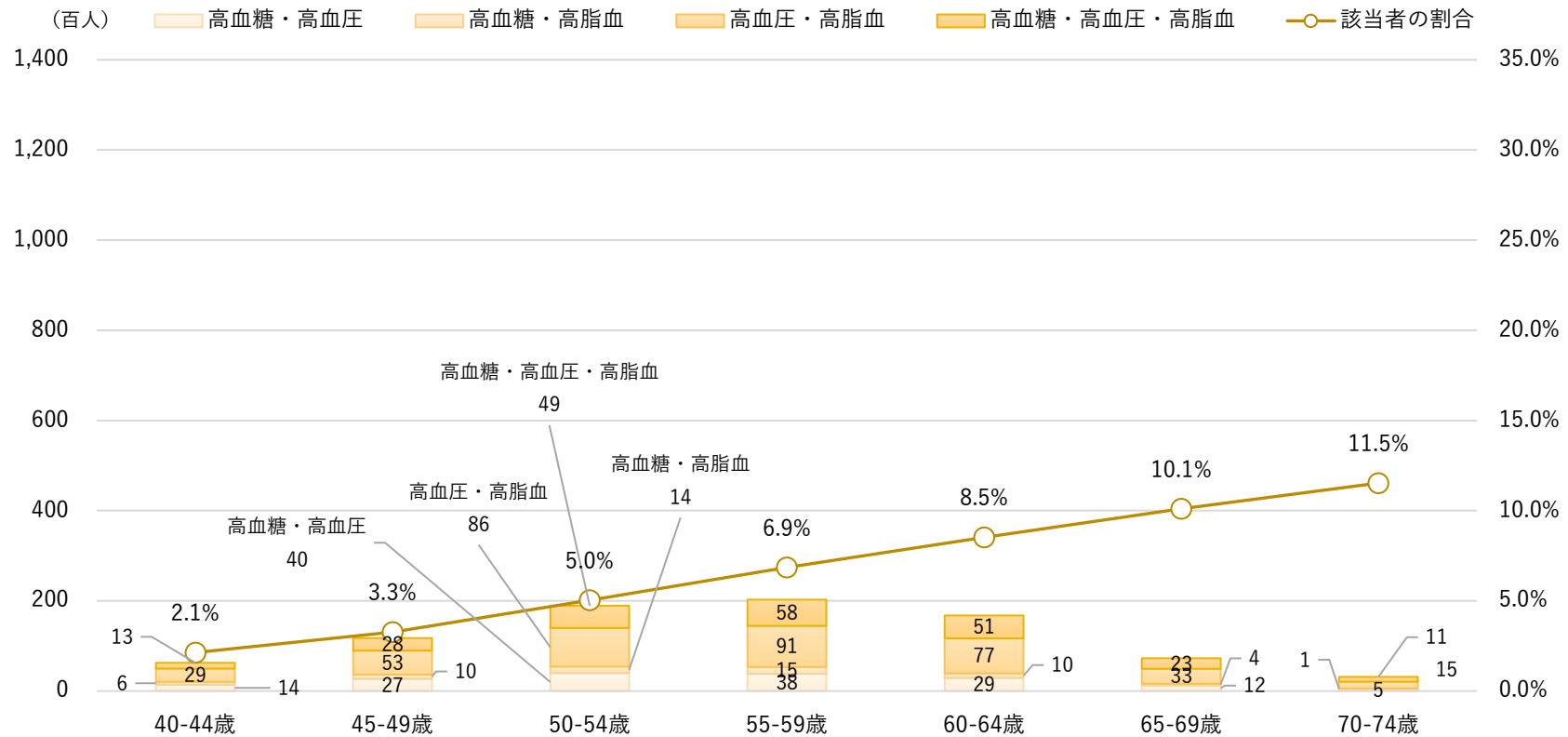
【女性】



令和4年度 特定健康診査
年齢階層別メタリックシート・ローム該当者 判定要因別有所見者数及び該当者の割合
【男性】



令和4年度 特定健康診査
年齢階層別メタリックシントローム該当者 判定要因別有所見者数及び該当者の割合
【女性】

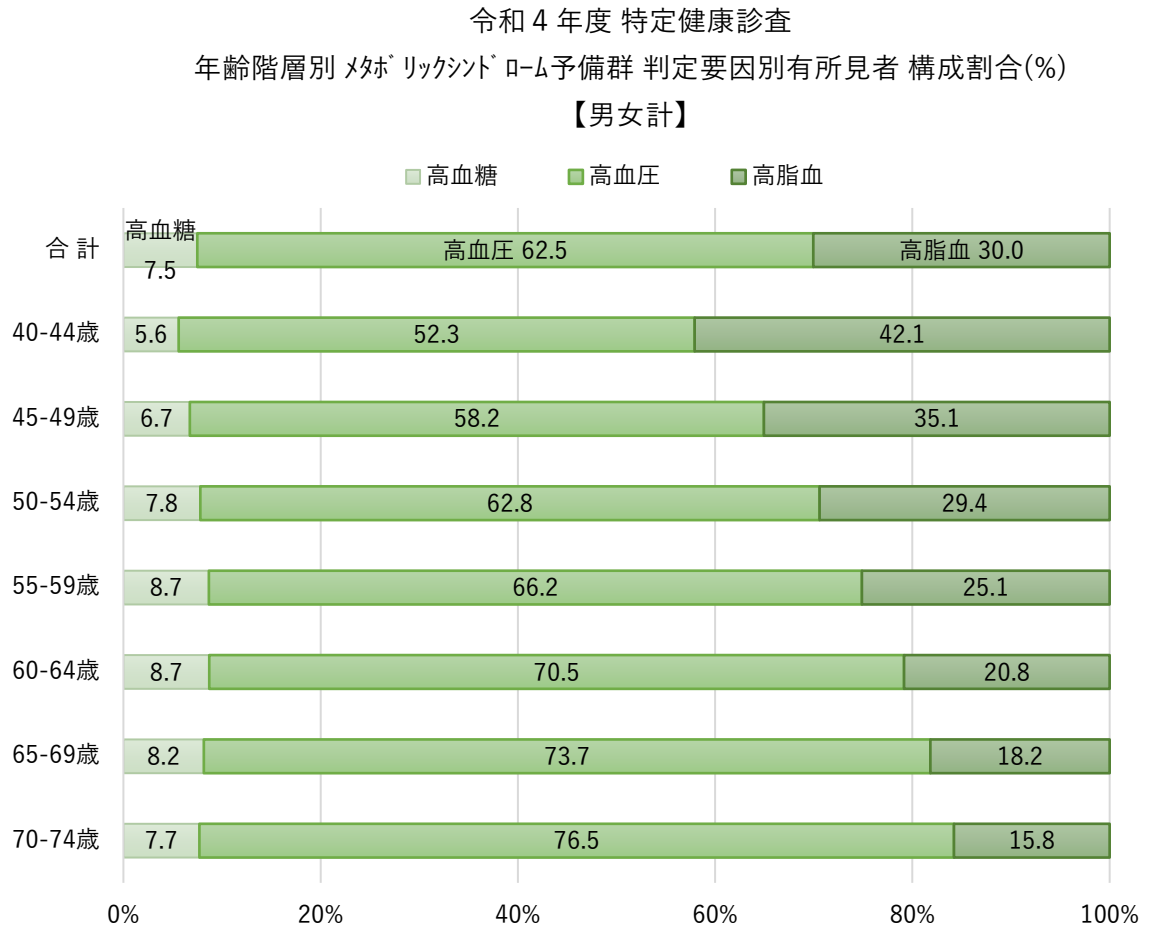


(%)

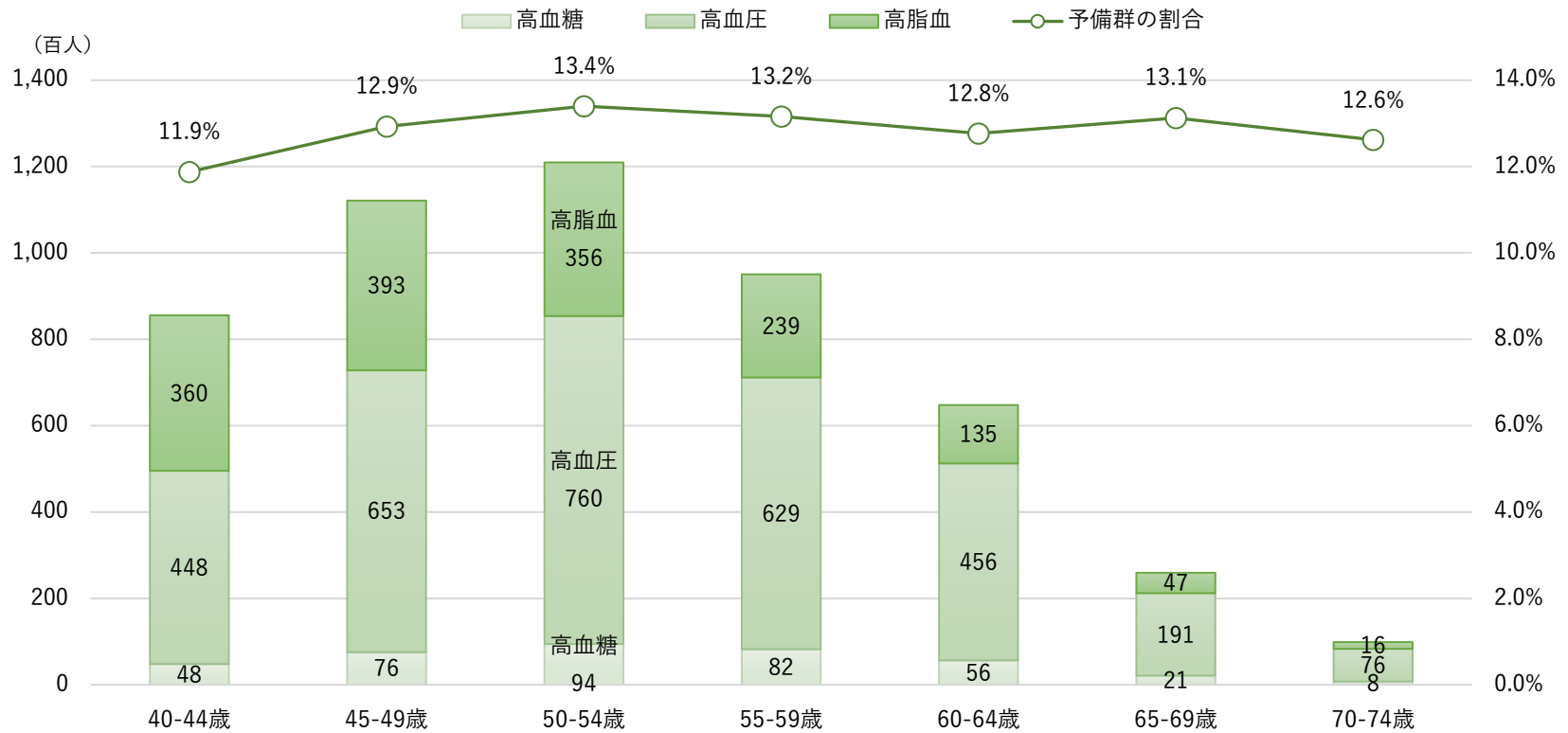
3. 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム【予備群】の有所見要因

(1) 男女計

- 年齢階層別に予備群の判定要因別有所見者の構成割合をみると、年齢が高くなるにつれ、【高血圧】の有所見者の割合が高くなり、【高脂血】の有所見者の割合が低くなっている。



令和4年度 特定健康診査
年齢階層別 メタリックシフト・ロム予備群 判定要因別有所見数及び予備群の割合
【男女計】

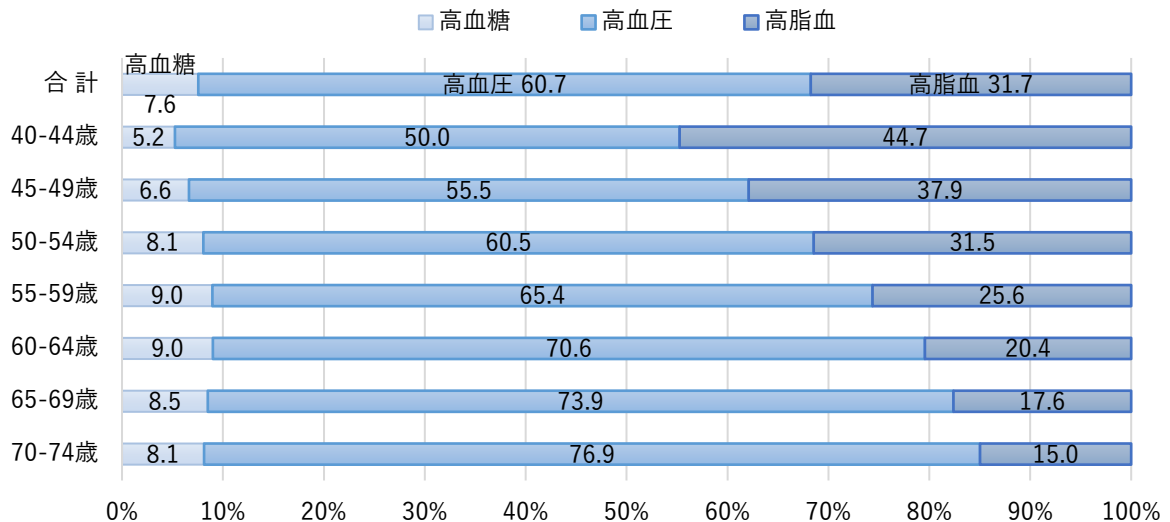


(2) 男性

- 男性では、年齢が高くなるにつれ、【高血圧】の有所見の割合が高くなり、【高脂血】の有所見者の割合が低くなっている。

年齢階層別メタリックシフトローム予備群 判定要因別有所見者 構成割合(%)

【男性】

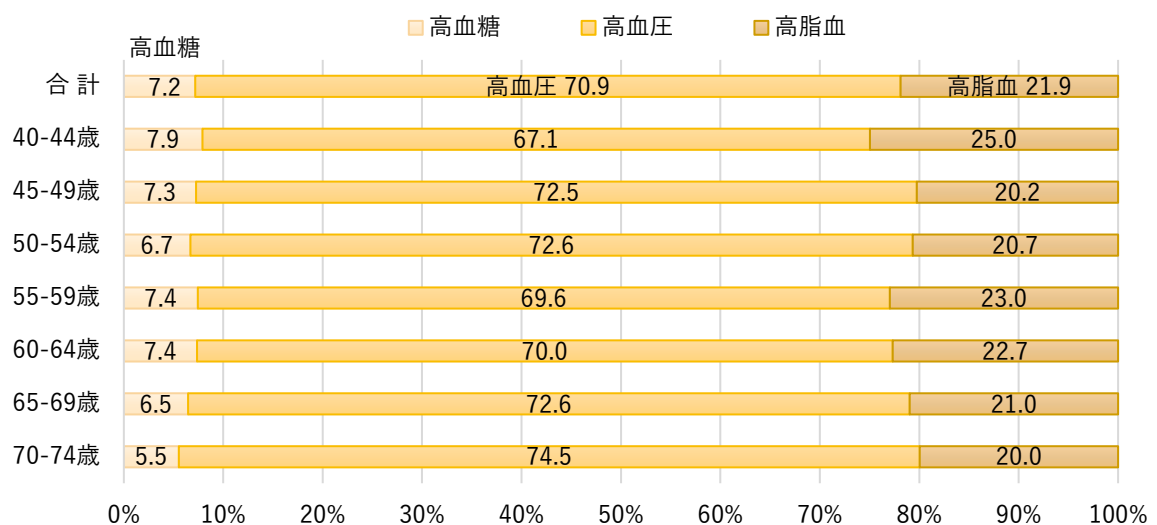


(3) 女性

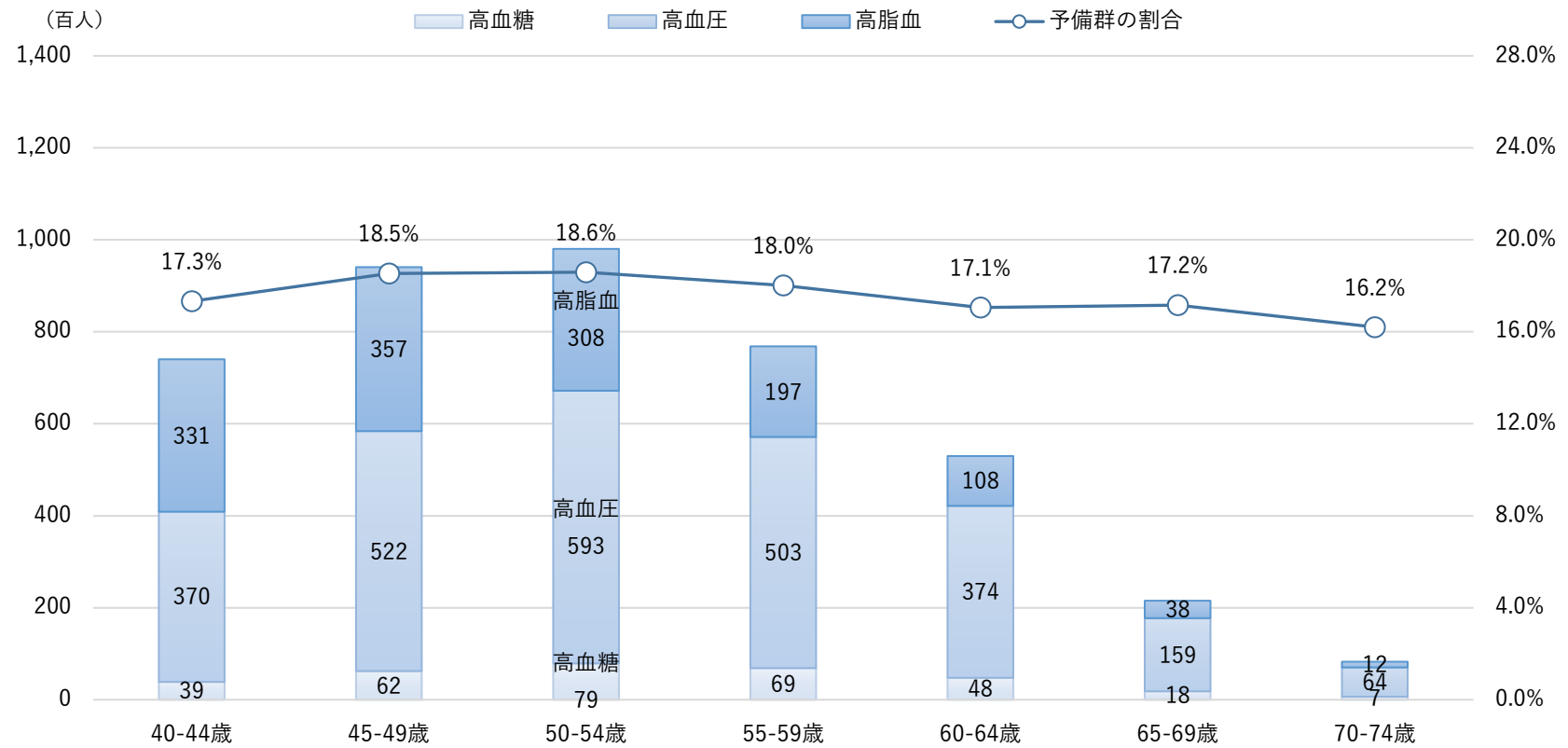
- 女性では、【高血圧】の有所見者の割合が45～54歳、65～74歳で高く、【高血糖】の有所見者の割合が40-49歳、55～64歳で高いほか、【高脂血】の有所見者の割合が40-44歳で高い。

年齢階層別メタリックシフトローム予備群 判定要因別有所見者 構成割合(%)

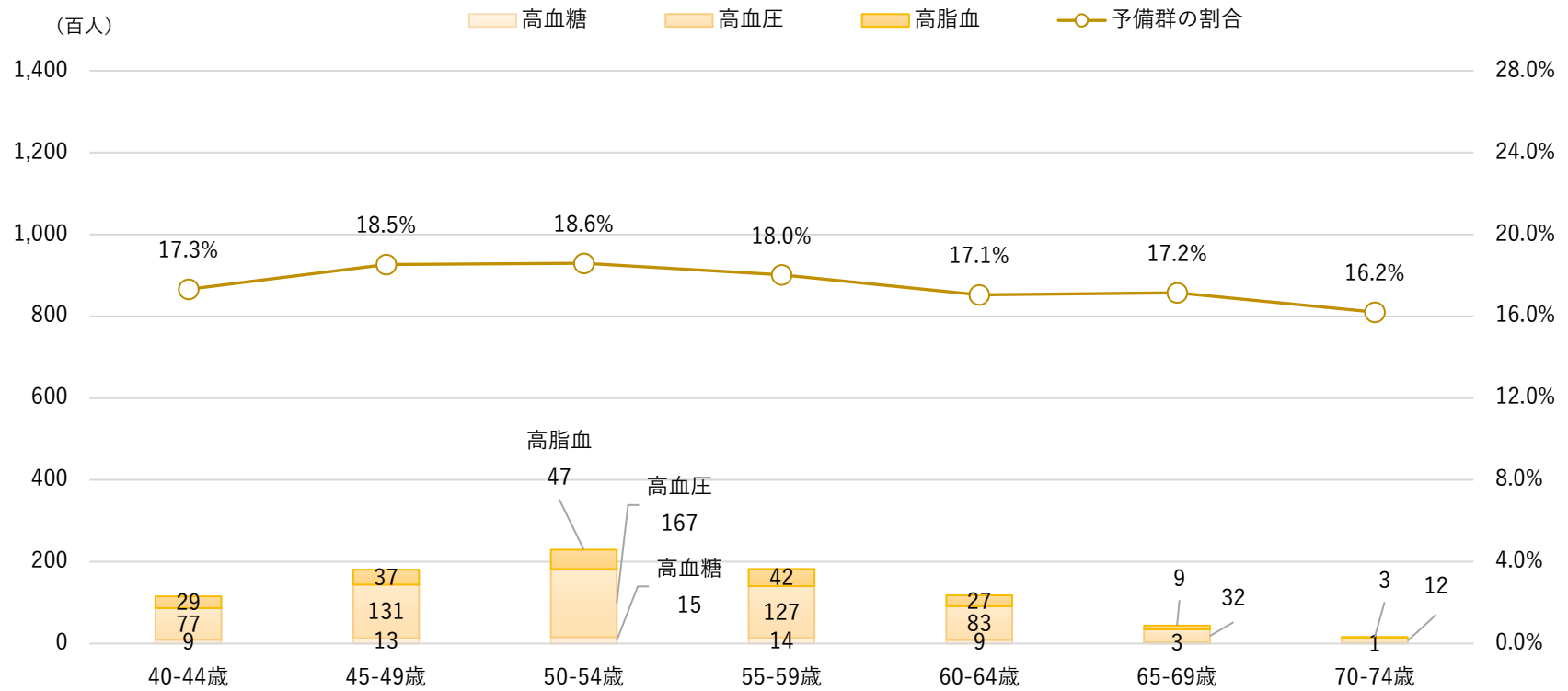
【女性】



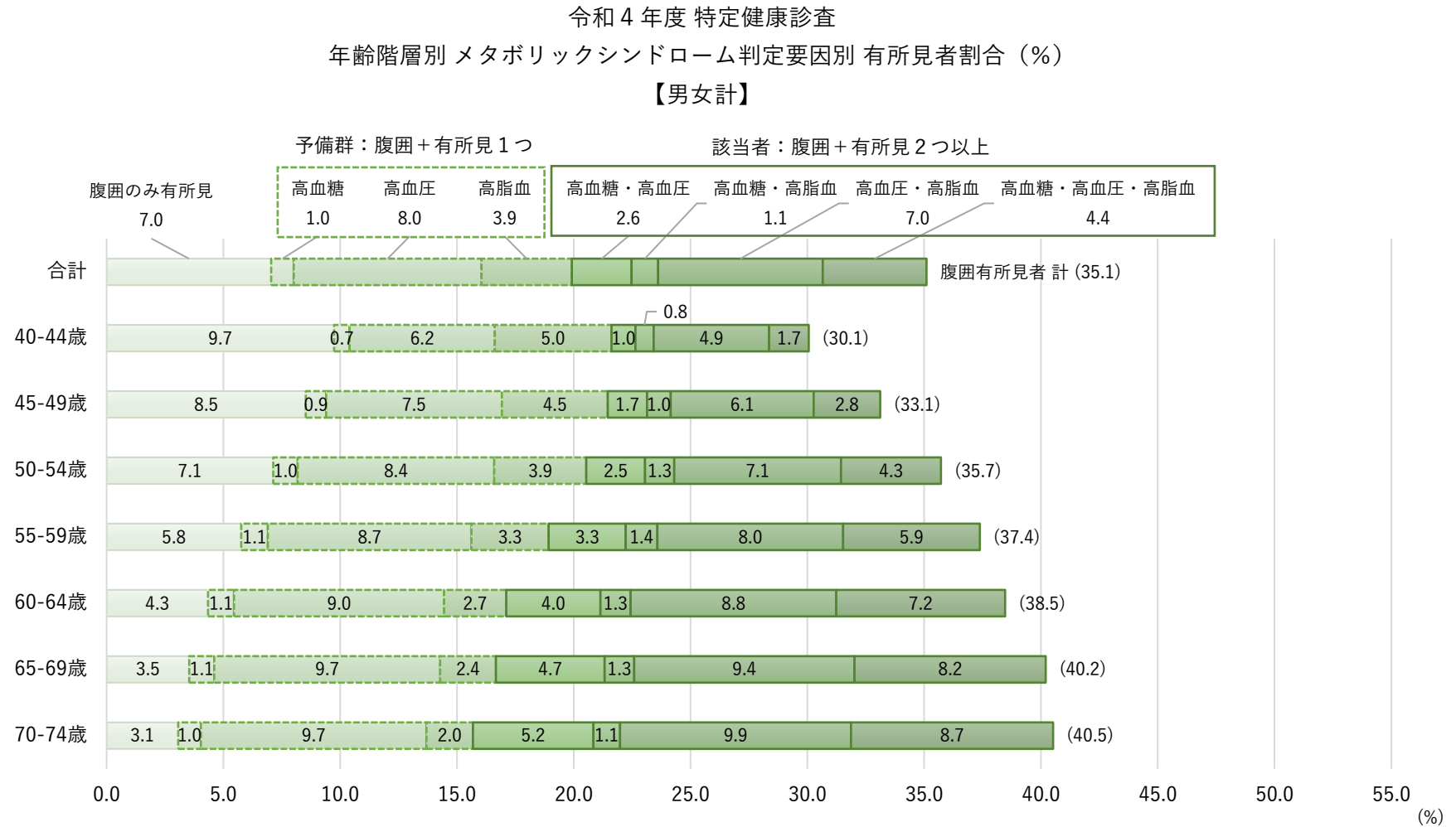
令和4年度 特定健康診査
年齢階層別メタリックシールド予備群 判定要因別有所見者数及び予備群の割合
【男性】



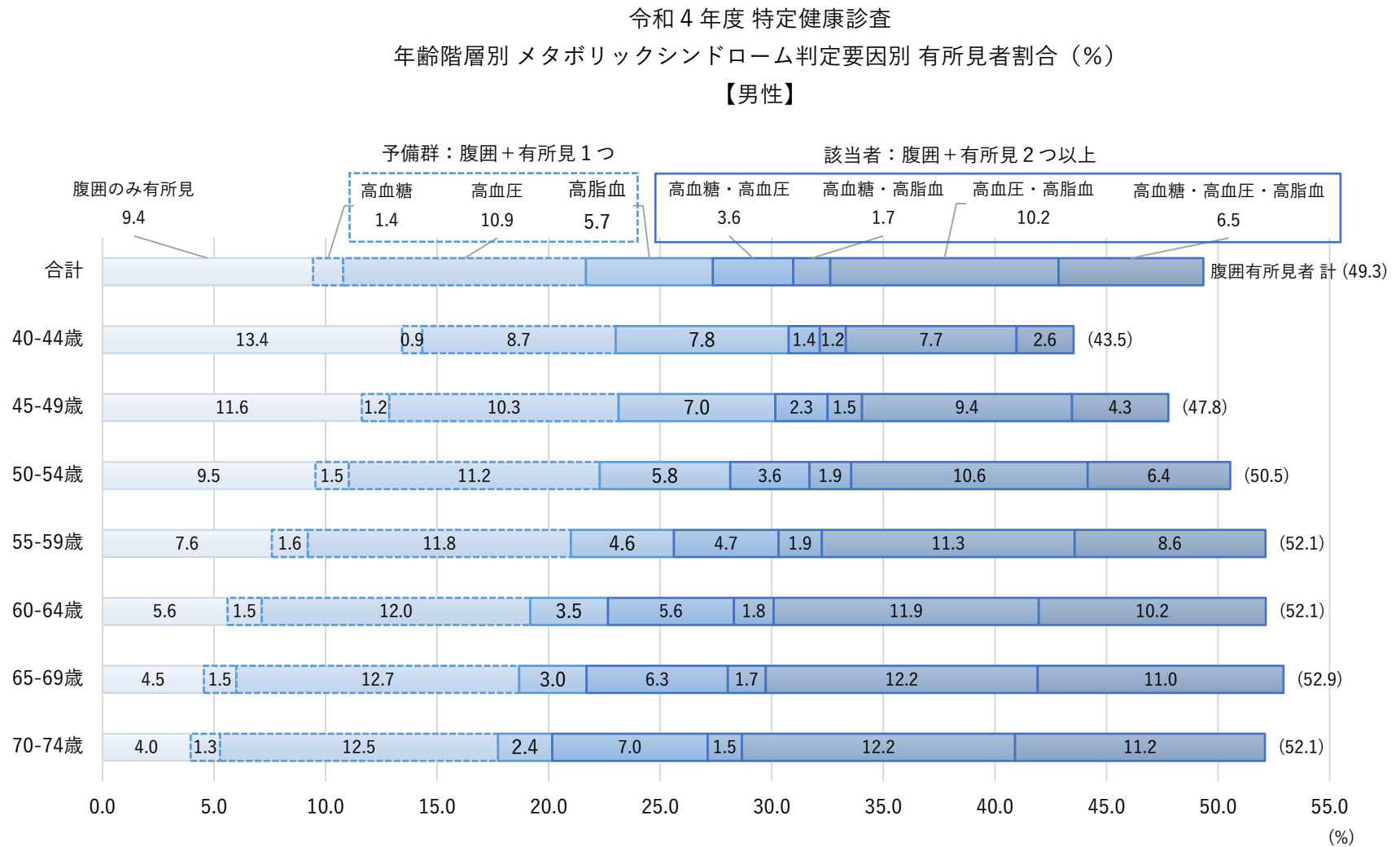
令和4年度 特定健康診査
年齢階層別メタリックシールド予備群判定要因別有所見者数及び予備群の割合
【女性】



(参考①) 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム判定要因別有所見者の割合：男女計

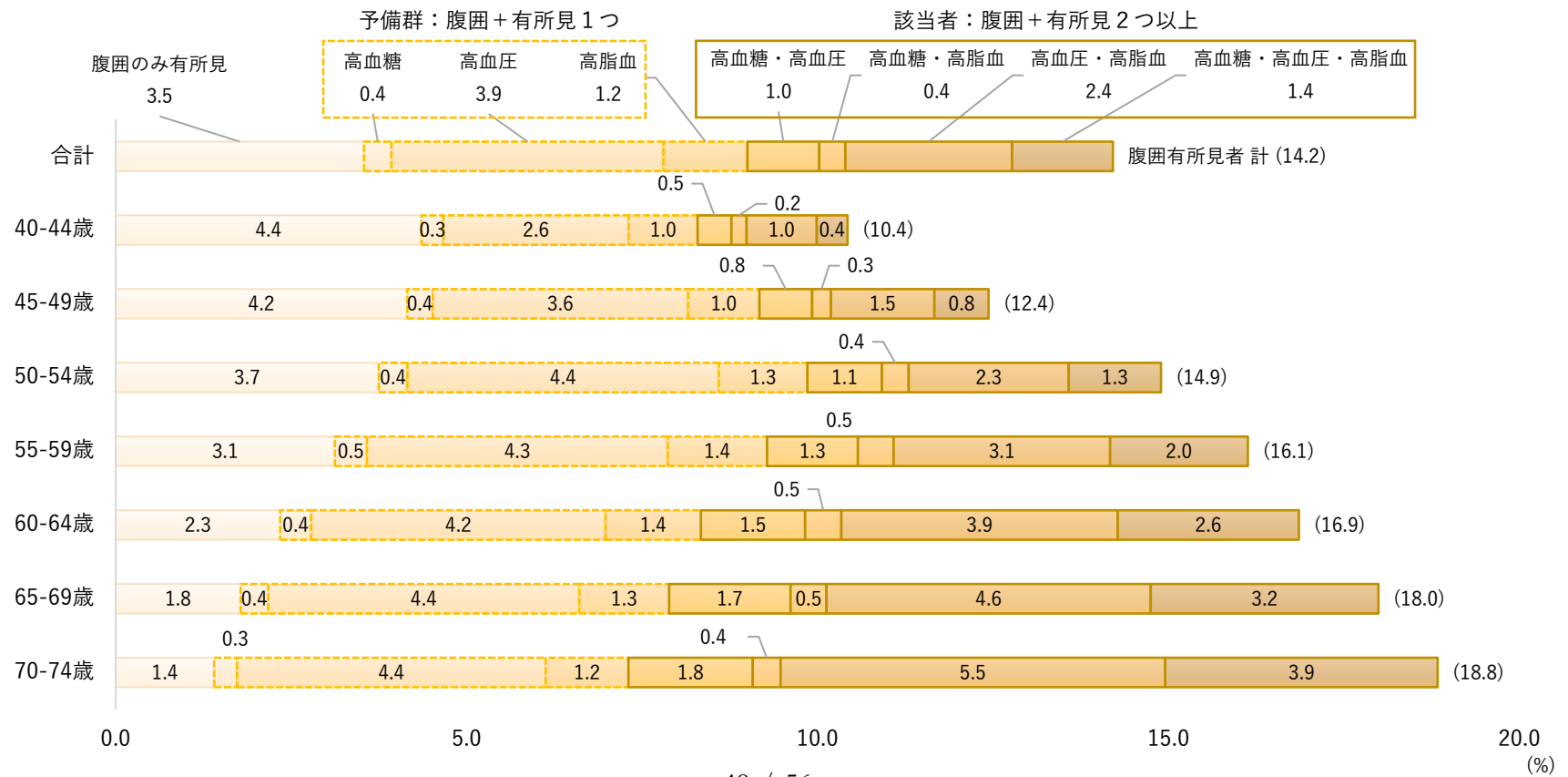


(参考②) 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム判定要因別有所見者の割合：男性



(参考③) 年齢階層別にみたメタボリックシンドローム判定要因別有所見者の割合：女性

令和4年度 特定健康診査
年齢階層別 メタボリックシンドローム判定要因別 有所見者割合 (%)
【女性】



4. メタボリックシンドロームの改善要因

(1) 該当者から＜予備群になった者＞の改善した有所見

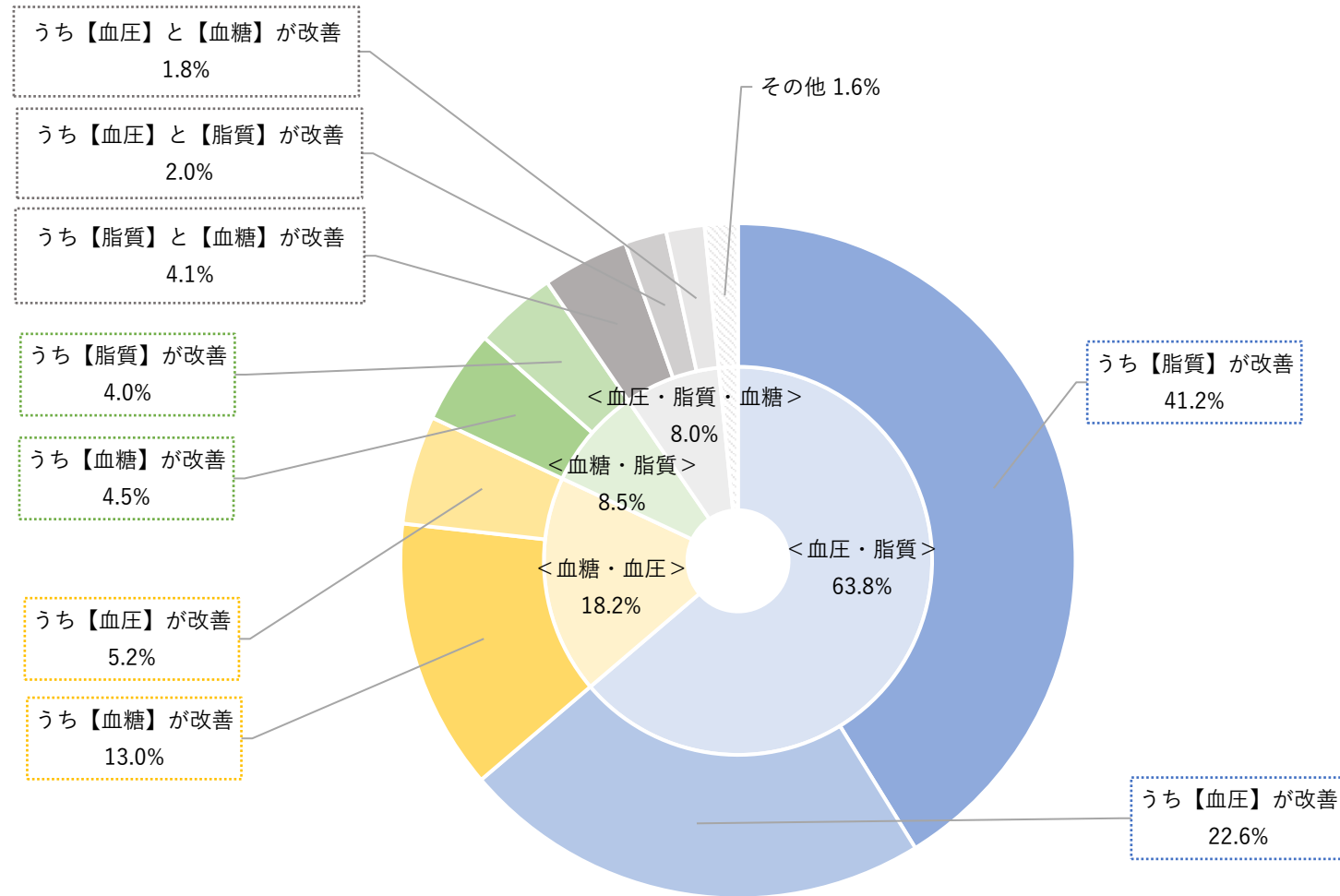
- 3年度の該当者（44万9,607人）のうち、4年度に予備群になった者（6万9,005人）について、改善した有所見別に該当者割合をみると、＜血圧・脂質＞の該当者で【脂質】の改善により予備群になった者が41.2%と最も高く、次いで、【血圧】の改善による者が22.6%、＜血糖・血圧＞の該当者で【血糖】の改善による者が13.0%—となっている。

昨年度のメタボリックシンドローム該当者のうち、4年度特定健診を受診した者				44万9,607人
うち、予備群になった者				6万9,005人 (100.0%)
有所見の組み合わせ		改善した有所見	該当者数	構成割合
有所見 2つ	【血圧】・【脂質】	うち【脂質】が改善	28,427人	41.2%
		うち【血圧】が改善	15,572人	22.6%
	【血糖】・【血圧】	うち【血糖】が改善	8,972人	13.0%
		うち【血圧】が改善	3,593人	5.2%
	【血糖】・【脂質】	うち【血糖】が改善	3,113人	4.5%
		うち【脂質】が改善	2,730人	4.0%
有所見 3つ	うち【脂質】と【血糖】が改善		2,853人	4.1%
	【血圧】・【血糖】・【脂質】	うち【血圧】と【脂質】が改善	1,384人	2.0%
		うち【血圧】と【血糖】が改善	1,267人	1.8%
その他			1,094人	1.6%

注)「その他」は、①血圧・脂質は改善したが、新たに血糖が有所見となった者：411人(0.6%)、②脂質・血糖は改善したが、新たに血圧が有所見になった者：375人(0.5%)、③血圧・血糖は改善したが、新たに脂質が有所見となった者：308人(0.4%)。

令和4年度 特定健康診査

メタボリックシンドローム該当者から予備群になった者（6万9,005人）の改善した有所見別該当者割合

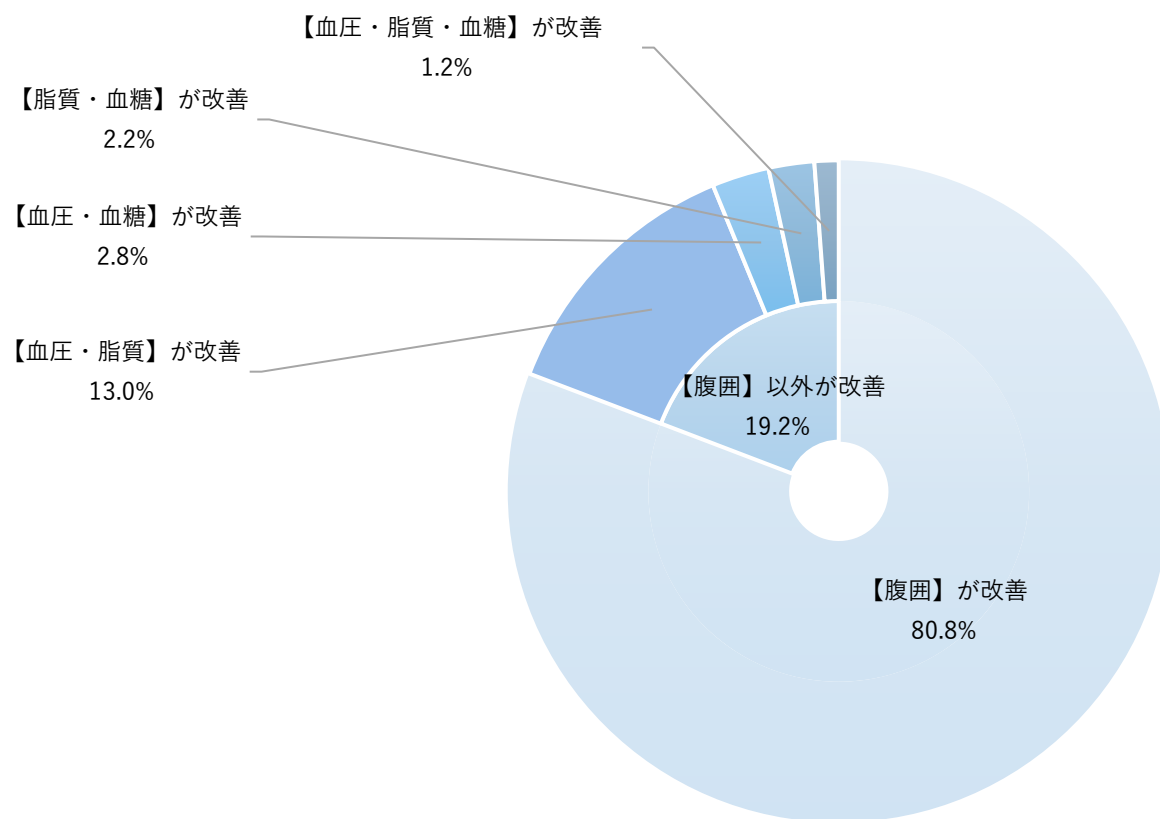


(2) 該当者から<該当者・予備群ではなくなった者>の改善した有所見

- 3年度の該当者(44万9,607人)のうち、4年度に該当者・予備群ではなくなった者(4万8,519人)について、改善した有所見別に該当者割合をみると、▽【腹囲】の改善による者が80.8%と最も高く、次いで、▽腹囲以外の【血圧・脂質】の改善による者が13.0%、【血圧・血糖】が改善した者が2.8%—となっている。
- なお、【腹囲】が改善した者の内訳をみると、【腹囲】のみ改善が43.2%、腹囲に加え、【脂質】が改善した者が13.3%、【血圧】が改善した者が7.1%、【血圧・脂質】が改善した者が5.6%—となっている。

昨年度のメタボリックシンドローム該当者のうち、4年度特定健診を受診した者		44万9,607人
うち、該当者・予備群ではなくなった者		4万8,519人 (100.0%)
改善した有所見		該当者数 構成割合
【腹囲】が改善		3万9,195人 80.8%
(内訳)	【腹囲】のみ改善	2万0,959人 43.2%
	【脂質】が改善	6,446人 13.3%
	【血圧】が改善	3,440人 7.1%
	【血圧】・【脂質】が改善	2,714人 5.6%
	【腹囲】に加え	【血糖】が改善 3,257人 6.7%
		【脂質】・【血糖】が改善 1,117人 2.3%
		【血圧】・【血糖】が改善 828人 1.7%
		【血圧】・【脂質】・【血糖】が改善 434人 0.9%
	【腹囲】以外が改善(腹囲は基準値以上のまま)	9,324人 19.2%
	【血圧】・【脂質】が改善	6,310人 13.0%
(内訳)	【血圧】・【血糖】が改善	1,358人 2.8%
	【脂質】・【血糖】が改善	1,083人 2.2%
	【血圧】・【脂質】・【血糖】が改善	573人 1.2%

令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム該当者から該当者・予備群ではなくなった者（4万8,519人）の
改善した有所見別該当者割合

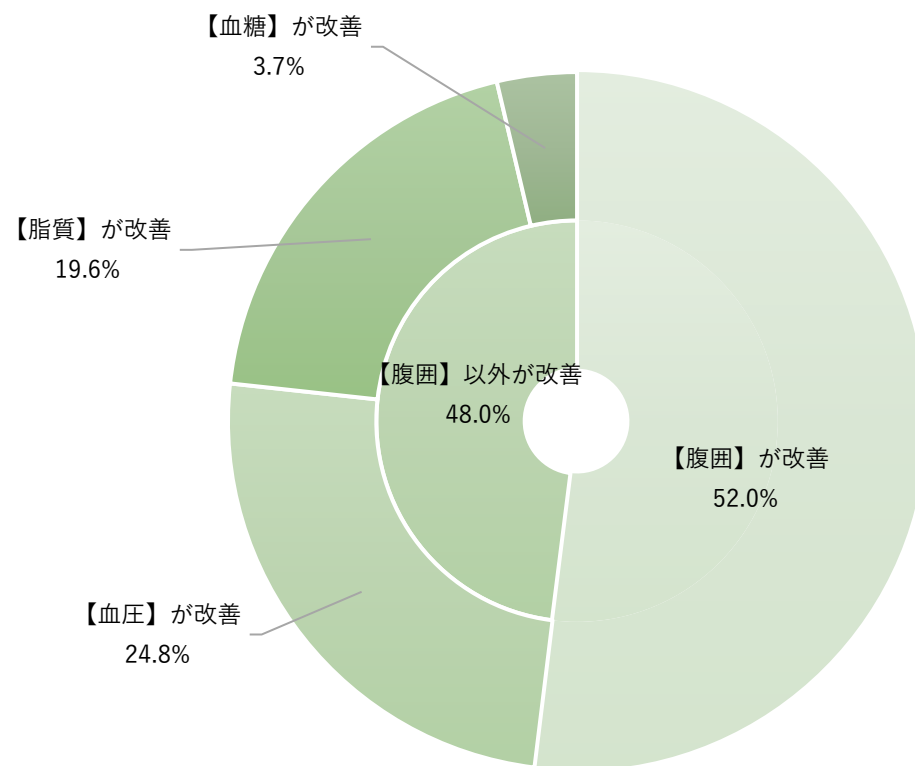


(3) 予備群から<該当者・予備群ではなくなった者>の改善した有所見

- 3年度の予備群（44万9,607人）のうち、4年度に該当者・予備群ではなくなった者（10万4,283人）について、改善した有所見別に該当者割合をみると、▽【腹囲】の改善による者が52.0%と最も高く、次いで、▽腹囲以外の【血圧】の改善による者が24.8%、【脂質】の改善による者が19.6%となっている。
- なお、【腹囲】が改善した者の内訳をみると、【腹囲】のみ改善した者が35.0%、腹囲に加え、【脂質】が改善した者が7.9%、【血圧】が改善した者が7.6%、【血糖】が改善した者が1.5%—となっている。

昨年度のメタボリックシンドローム予備群のうち、4年度特定健診を受診した者		44万9,607人
うち、該当者・予備群ではなくなった者		10万4,283人 (100.0%)
改善した有所見		該当者数 構成割合
【腹囲】が改善		5万4,205人 52.0%
【腹囲】のみ改善		3万6,487人 35.0%
(内訳)	【脂質】が改善	8,279人 7.9%
	【腹囲】に加え 【血圧】が改善	7,922人 7.6%
	【血糖】が改善	1,517人 1.5%
	【腹囲】以外が改善（腹囲は基準値以上のまま）	5万0,078人 48.0%
(内訳)	【血圧】が改善	2万5,837人 24.8%
	【脂質】が改善	2万0,407人 19.6%
	【血糖】が改善	3,834人 3.7%

令和4年度 特定健康診査
メタボリックシンドローム予備群から該当者・予備群ではなくなった者（4万8,519人）の
改善した有所見別該当者割合



【参考】予備群から該当者になった者の有所見要因

- 3年度の予備群（44万9,607人）のうち、4年度に該当者になった者（8万4,838人）について、予備群から該当者になった有所見要因別の該当者割合をみると、【血圧】を有所見とする予備群で【脂質】が加わった者が37.0%と最も高く、次いで、【脂質】を有所見とする予備群で【血圧】が加わった者が24.2%、【血圧】を有所見とする予備群で【血糖】が加わった者が14.2%—となっている。

昨年度のメタボリックシンドローム予備群のうち、4年度特定健診を受診した者		44万9,607人	
うち、該当者になった者		8万4,838人	(100.0%)
有所見	有所見要因	該当者数	構成割合
【血圧】	【脂質】が追加	31,358	37.0%
	【血糖】が追加	12,061	14.2%
	【脂質・血糖】が追加	3,966	4.7%
【脂質】	【血圧】が追加	20,545	24.2%
	【血糖】が追加	4,494	5.3%
	【血圧・血糖】が追加	2,313	2.7%
【血糖】	【血圧】が追加	4,406	5.2%
	【脂質】が追加	2,846	3.4%
	【血圧・脂質】が追加	1,596	1.9%
その他		1,253	1.5%

【参考】

令和3年度のメタボリックシンドローム該当者のうち、4年度特定健診を受診した者の判定状況

	該当者数	構成割合
昨年度の該当者のうち4年度特定健診を受診した者	44万9,607人	(100%)
該当者のまま	33万2,083人	73.9%
①予備群になった者	6万9,005人	15.3%
②該当者・予備群ではなくなった者	4万8,519人	10.8%
(該当者の減少率：①＋②)		(26.1%)

令和3年度のメタボリックシンドローム予備群のうち、4年度特定健診を受診した者の判定状況

	該当者数	構成割合
昨年度の予備群のうち４年度特定健診を受診した者	40 万 5,607 人	(100%)
予備群のまま	21 万 6,486 人	53.4%
①該当者・予備群ではなくなった者	10 万 4,283 人	25.7%
②該当者になった者	8 万 4,838 人	20.9%
(予備群の減少率：①)		(25.7%)